水戸市埋蔵文化財調査報告　第59集

吉田神社遺跡

（第１地点）

―大型物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

２０１３

水戸市教育委員会

ごあいさつ

吉田神社遺跡は，那珂川の一支流である桜川右岸の台地上に位置しております弥生時代から中世にかけて営まれた複合遺跡です。当遺跡の周辺には，国指定史跡「吉田古墳」をはじめとして，大鋸町遺跡，薬王院東遺跡，東組遺跡などの多くの遺跡が立地しており，古くから土地利用の活発な地域でした。

歴史的文化遺産である埋蔵文化財は，工事や開発によって一度破壊されると二度と原状に復すことができないため，私たちが保存しながら後世へと伝えていかなければならない貴重な財産です。しかし近年，都市化の様相が強まる中，当遺跡周辺においても開発が増加し，埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつあります。そこで，本市においては，文化財のもつ意義や重要性を踏まえつつ，文化財保護法及び関係法令に基づいた文化財の保護・保存に努めているところです。

このたび，当遺跡内におきまして大型物販店舗の建設が計画されました箇所につきましては，試掘・確認調査の結果，埋蔵文化財への影響が予想されました。そこで文化財保護の観点から事業者と十分な協議を重ねてまいりましたが，現状保存は困難であるとの結論に至ったことから，次善の策として発掘調査を実施し，記録の上での保存措置を講ずることといたしました。

今回の調査により，古墳時代後期の竪穴建物跡をはじめとする多くの遺構群が確認され，国指定史跡「吉田古墳」造営以前の集落の存在が明らかとなりました。吉田神社遺跡における本格的な発掘調査は今回が最初であり，遺跡の性格を考えていくうえで，さらには，当該地域における古代地域社会の実態を解明していくため貴重な知見を得ることができました。

ここに刊行する本書が，かけがえのない貴重な文化財に対する意識の高揚と学術研究等の資料として，広く御活用いただければ幸いです。

終わりに，本調査にあたり多大な御理解と御協力をいただきました事業者の株式会社マルトグループホールディングス様をはじめ，周辺住民の皆様，並びに関係機関の皆様方に心から感謝申し上げます。

平成 25 年 4 月

水戸市教育委員会

教育長　本多　清峰

例　言

1　本書は，茨城県水戸市宮内町に所在する吉田神社遺跡における，大型物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2　発掘調査は株式会社マルトグループホールディングスの委託を受け，水戸市教育委員会の指導のもと，テイケイトレード株式会社が主体となって実施した。

3　調査対象および調査期間は，以下のとおりである。

所在地	茨城県水戸市宮内町 3197-5，3199-1 地内
調査面積	500 ㎡
発掘調査期間	平成 24 年 12 月 6 日～平成 25 年 1 月 11 日
整理調査期間	平成 25 年 1 月 15 日～3 月 28 日

4　発掘調査の組織は別記のとおりである。

5　本書の編集は渥美賢吾・米川暢敬（水戸市教育委員会事務局）の指導・助言のもと，前田卓宏・伊藤千洋（テイケイトレード株式会社）が担当し，執筆は米川，伊藤・高野恒一・松本 晃（テイケイトレード株式会社）が分担した。文責は各文末に記載している。

6　出土した遺物および原図・写真類は，水戸市教育委員会が大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財センターにおいて保管している。

7　発掘調査の実施から報告書刊行に至るまで，下記の方々および機関より御指導・御協力を賜った。記して謝意を表したい（順不同・敬称略）。

株式会社マルトグループホールディングス

調査組織

調査機関	テイケイトレード株式会社（代表取締役　須田　清隆）
主任調査員	前田　卓宏（テイケイトレード株式会社埋蔵文化財事業部）
調　査　員	伊藤　千洋（テイケイトレード株式会社埋蔵文化財事業部）
	高野　恒一（テイケイトレード株式会社埋蔵文化財事業部）
	松本　晃　（テイケイトレード株式会社埋蔵文化財事業部）
調査・整理参加者	田村　政子・栗原　昌子・平根　幸子・関　律子・高久　照美・萩野谷　幸次
	久野　周也・吉崎　由美・岩田　美智子
調査指導	水戸市教育委員会（教育長　本多　清峰）
事　務　局	会沢　俊郎　（教育次長）
	中里　誠志郎（参事兼文化課長）
	五上　義隆　（文化課副参事兼埋蔵文化財センター所長）
	渥美　賢吾　（埋蔵文化財センター文化財主事）
	米川　暢敬　（埋蔵文化財センター文化財主事）
	山戸　祐子　（埋蔵文化財センター嘱託員）
	坂本　幸子　（埋蔵文化財センター嘱託員）
	木本　雪佳　（埋蔵文化財センター嘱託員）
	額賀　大輔　（埋蔵文化財センター嘱託員）
	鈴木　達也　（埋蔵文化財センター嘱託員）

凡　例

1　遺構実測図は国家標準直角座標Ⅸ系を基に作成し，方位は真北を示す。

　　遺構：　平面図　　住居跡堀り方１／80　住居跡1／60　土坑・ピット１／50

　　セクション図　住居跡1／60　土坑・ピット１／50

　　遺物：　土器１／３　　石器４／５

2　出土遺物観察表中の計測値は，＜＞が復元値（　）が残存値を示し，法量の単位はcm，ｇとする。

3　平面図は完掘状況を表し，必要に応じ上端・中端線などを記入している。

4　掲載した遺物には，遺物毎に番号を付しており，本文・挿図・表・写真図版ともに一致している。

5　土層と土器の色調観察は，『新版　標準土色帖』（監修　農林水産省農林水産技術会議事務局ほか）を使用した。

6　引用・参考文献は，一括して本書の最後に示した。

目　次

第１章　はじめに---------- 1

第１節　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

　第２節　調査の方法と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第２章　遺跡の位置と環境---------- 3

　第１節　吉田神社遺跡と周辺の地形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

　第２節　歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第３章　基本層序---------- 5

第４章　検出された遺構と遺物---------- 5

　第１節　遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

　第２節　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

第５章　総括---------- 39

引用・参考文献---------- 41

図版目次

第１図　吉田神社遺跡と周辺の遺跡…… 2

第２図　調査対象地の位置 …… 3

第３図　基本層序図 …… 6

第４図　調査区平面図 …… 7

第５図　SI01 平面図及び断面図 …… 8

第６図　SI01 カマド平面図及び断面図 …… 10

第７図　SI01 堀り方平面図 …… 11

第８図　SI01　出土遺物 …… 13

第９図　SI02a 床面平面図及び断面図…… 14

第 10 図 SI02b 床面・堀り方平面図及び断面図…… 15

第 11 図　SI02b 床面・堀り方平面図 …… 16

第 12 図　SI02　出土遺物（１）…… 17

第 13 図　SI02　出土遺物（２）…… 18

第 14 図　SI02　出土遺物（３）…… 19

第 15 図　SI03 平面図及び断面図・炉平面図及び断面図　21

第 16 図　SI03　出土遺物…… 21

第 17 図　SI04 平面図及び断面図 …… 23

第 18 図　SI04　出土遺物…… 23

第 19 図　SI05 平面図及び断面図 …… 24

第 20 図　SI05　出土遺物…… 25

第 21 図　SK01・12・P07 平面図及び断面図 …… 26
第 22 図　SK02・SK03 平面図及び断面図 …… 26
第 23 図　SK04 平面図及び断面図 …… 28
第 24 図　SK05 平面図及び断面図 …… 28
第 25 図　SK07 ～ SK09・P04 ～ P06 平面図及び断面図 …… 29
第 26 図　SK10 平面図及び断面図 …… 30
第 27 図　SK11 平面図及び断面図 …… 31
第 28 図　P001・P03 平面図及び断面図 …… 31
第 29 図　P02 平面図及び断面図 …… 33
第 30 図　P08 ～ P13 平面図及び断面図 …… 33
第 31 図　遺構外出土遺物（1） …… 36
第 32 図　遺構外出土遺物（2） …… 37

表目次

第 1 表　SI01 遺物観察表 …… 11
第 2 表　SI02 遺物観察表 …… 19
第 3 表　SI03 遺物観察表 …… 22
第 4 表　SI04 遺物観察表 …… 24
第 5 表　SI05 遺物観察表 …… 25
第 6 表　遺構外遺物観察表 …… 38
第 7 表　出土遺物一覧表 …… 42

写真図版目次

写真図版 1　A 区遺構検出状況（南西から）
B 区遺構検出状況（西から）
写真図版 2　A 区遺構完掘状況（北西から）
B 区遺構完掘状況（南から）
写真図版 3　SI01　完掘（北東から）
SI01　カマド袖・焼土検出状況（東から）
SI01　カマド南北セクション（東から）
SI02　完掘（東から）
SI02　堀り方完掘（東から）
SI02　南東部遺物出土状況（西から）
SI03　硬化面検出状況（西から）
SI03　炉　セクション（西から）
写真図版 4　SI04　完掘（北西から）
SI04　南北セクション（東から）
SI05　完掘（南東から）
SK01　完掘（南から）
SK02　完掘（北西から）
SK03　完掘（西から）
SK03　セクション（南から）
SK04　セクション（南西から）
写真図版 5　SK09　セクション（西から）
SK10　セクション（南から）
SK11　セクション（南から）
P08 ～ P13　完掘（南から）
SI01　作業風景（南西から）
原状復帰状況（南から）
写真図版 6　SI01 出土遺物
写真図版 7　SI02 出土遺物（1）
写真図版 8　SI02 出土遺物（2）
写真図版 9　SI03・SI04・SI05・遺構外出土遺物（1）
写真図版 10　遺構外出土遺物（2）

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経緯

平成 24 年７月 10 日付けにて，大型物販店舗建築工事に伴う「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が，株式会社マルトグループホールディングス代表取締役　安島　浩（以下「事業者」という。）より，水戸市教育委員会教育長（以下「市教委教育長」という。）あてに提出された。

照会地である水戸市元吉田町字作田 3250 番６外 15 筆は，周知の埋蔵文化財包蔵地「吉田神社遺跡（201 － 161）」の範囲内に該当していることから，当該事業の実施にあたっては，事前に試掘・確認調査を実施する必要があること，文化財保護法（以下「法」という。）第 93 条第１項に基づき，茨城県教育委員会教育長（以下「県教委教育長」という。）あて届出が必要である旨回答した（教埋第 584 号）。

平成 24 年９月 13 日から平成 24 年９月 14 日にかけて，当該地点を第１地点として，市教委による試掘・確認調査が実施された。その結果，事業地内北部において，竪穴建物跡や溝跡等の遺構群が確認された。

試掘結果と事業計画を照らし合わせたところ，埋蔵文化財が確認された事業地内北部は，店舗建築予定地確保のために切り土が行われる部分であり，埋蔵文化財への影響は避けられないものと判断されたため，市教委は事業者との協議を重ねたが，計画変更による遺構の現状保存は困難であるとの結論に達した。事業者から法 93 条第１項に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が市教委に提出され，次善の策として記録保存を目的とした発掘調査を実施すべき旨の意見書を付して，県教委教育長あて届出を進達した（教埋第 760 号）。県教委教育長から事業者に対し，事業地内北部の切り土が行われる部分において工事着手前に発掘調査を実施すること，また調査の結果重要な遺構等が確認された場合にはその保存について別途協議を要する旨勧告があった（平成 24 年 10 月 19 日付文第 1493 号）。

この勧告を受けて，事業者はテイケイトレード株式会社と発掘調査業務委託契約を締結し，平成 24 年 12 月６日から平成 25 年１月 11 日まで，市教委の指導・助言の下，発掘調査を実施することとなった。（米川）

第２節　調査の方法と経過（第１・２図）

本調査は試掘調査で検出された遺構を対象として，平成 24 年 12 月６日から平成 25 年１月 11 日まで実施した。表土掘削は重機（バックホー）を使用して行い，その後人力により遺構検出を実施した。調査区内には公共座標に基づき 4m 四方グリッドを設定した。遺構の調査は，土層観察用ベルトを任意に設定し覆土の掘削を行い，遺物出土状況等を記録した後に完掘した。平面図実測は，トータルステーションを使用し X・Y 座標を割り出し作成した。写真撮影は，35mm のモノクロフィルム・カラーリバーサルフィルムと 1230 万画素のデジタルカメラを用いて行った。

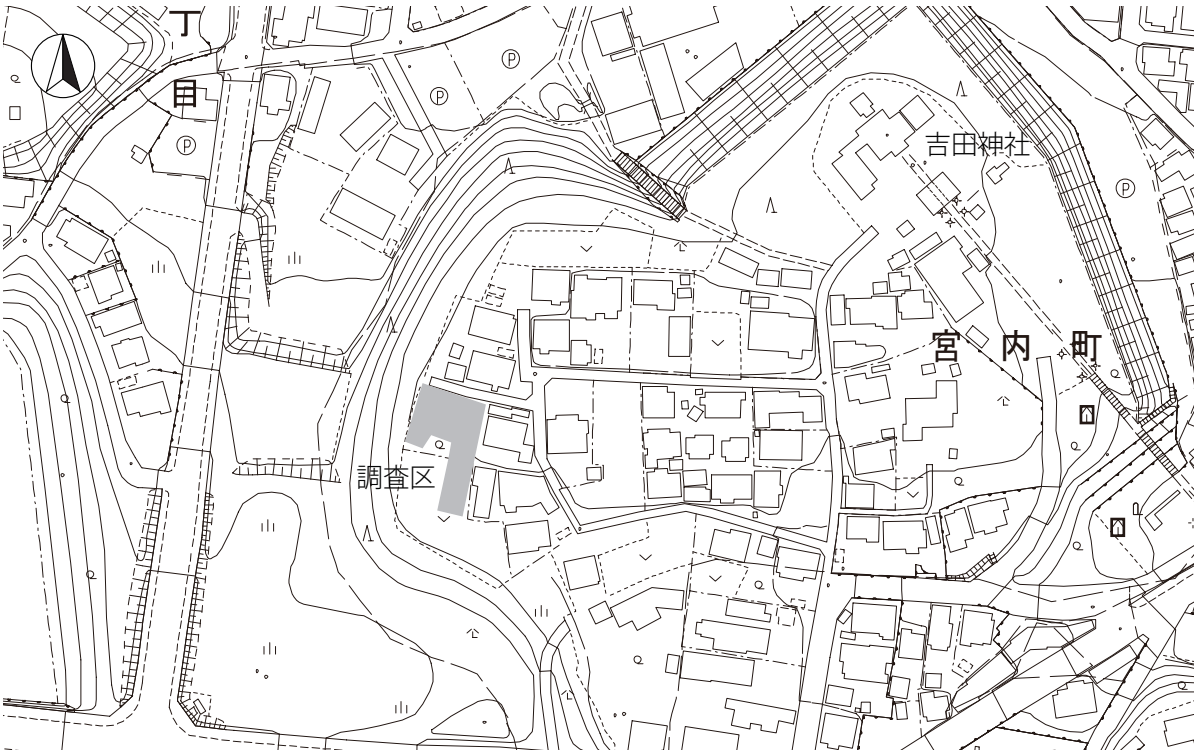
12 月６日，調査区現況を確認し，測量点移動を行った。12 月７日 , 調査区設定し，機材の搬入を行った。12 月 10 日，重機を用いて調査区の表土掘削を開始する。12 月 11 日，表土掘削終了。遺

構検出作業を開始。12 月 13 日，遺構検出作業終了。調査区を南北に A 区 B 区と設定し（第 4 図），遺構調査開始。以降，12 月 14 日～ 1 月 27 日まで遺構調査を行う，12 月 28 日～ 1 月 6 日まで年末年始休み。 1 月 7 日より調査再開。また，同日より A 区南西部を拡張し，SI02 の南半の調査開始。1 月 11 日，遺構調査のすべてを終了。水戸市教育委員会による確認終了の後，重機による埋め戻し開始，完了。機材を撤収。発掘調査終了。 1 月 15 日より整理作業開始。報告書作成にあたっては，グラフィックソフト及び DTP 編集ソフトによる編集を行った。（高野）

第 1 図　吉田神社遺跡と周辺の遺跡

201-001 谷田貝塚　201-007 水戸南高校遺跡　201-008 吉田貝塚　201-010　お下屋敷遺跡　201-011 大鋸町遺跡　201-128 薬王院東遺跡
201-146 柳崎貝塚　201-161 吉田神社遺跡　201-235 町付遺跡

（水戸市埋蔵文化財包蔵地分布地図平成 24 年度版 3 万分の 1 より作成）



第２図　調査対象地の位置（水戸市都市計画図 1/2,500 に加筆作成）

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　吉田神社遺跡と周辺の地形

水戸市は，関東平野の北東部に位置し，市域北部には那珂川が西から東へ流れる。那珂川の周辺には沖積低地が広がり，その南側には洪積層の「東茨城台地」が那珂川に沿うように大洗方面へ延びる。市域西部は八溝山地の外縁にあたる丘陵地帯となっている。

吉田神社遺跡は，茨城県水戸市宮内町3197-5ほかに所在する集落遺跡である。JR水戸駅から南の方向に位置し，東茨城台地の主に水戸市域にあたる通称「水戸台地」の東端に立地する「吉田台地」上に立地する。水戸台地の地質は，水戸層と呼ばれる第三紀層（凝灰質泥岩層）を基盤岩とし，その上部に，砂，礫，シルトで構成される見和層，上市礫層が続く。これらを最下部に赤城水沼テフラ群を伴う火山灰で構成されたいわゆる関東ローム層が覆っており，現在の台地を形成している。

（伊藤）

第２節　歴史的環境（第１図）

ここでは，水戸市域のうち本遺跡の周辺に当たる那珂川流域の台地上について記述する。

旧石器時代～縄文時代草創期　吉田神社遺跡周辺における人々の営みの痕跡は旧石器時代まで遡る。該期の遺跡は，吉田台地東部を南北に開析する石川川両岸にまとまって分布する。大鋸町遺跡（201-011）では，橋本編年IIc期（橋本 1995）の尖頭器が出土している。石川川右岸の百合ヶ丘町において旧石器～縄文移行期の御子柴型尖頭器が採集されている（川口 2008a）。

縄文時代　標高10m前後の低位段丘面には，前期の谷田貝塚（201-001）が位置する。また，吉田台地北東端にある大串貝塚と千波湖畔の柳崎貝塚（201-146）とを結ぶと，台地北縁３地点を42.45km間隔で分布し，前期の汽水域海浜集落の立地等に示唆を与えている（南田 2009a）。中期の吉田貝塚（201-008）は，隣接する水戸南高校遺跡（201-007）と拠点的集落であった可能性を指摘されている（南田 2009a）。薬王院東遺跡（201-128）では中期の竪穴状遺構のほか，早期沈線文系・後期安行式の土器が出土している。大鋸町遺跡（201-011）では，土坑や早期の撚糸文や沈線文系，中期の阿玉台式～後期の堀之内式・安行式，晩期前浦式までの土器が出土している。吉田台地では全的には中期前半～後期前半を主体とし，早期～晩期に至るまでの土器を出土する遺跡が多く，長い活動が窺える。

弥生時代　主体は後期後半の十王台式期。薬王院東遺跡（201-128）では住居跡10軒と竪穴状遺構１基，お下屋敷遺跡（201-010）で６軒，町付遺跡（201-235）で１軒が検出されている。また，低位段丘に立地する薄内遺跡では，古墳時代前期の住居跡覆土中から前期末～中期初頭に比定される土器破片と中期末の土器破片がまとまって検出されており，注目されている。

古墳時代　前期集落で確認された竪穴住居跡数を列挙すると，大鋸町遺跡（201-011）５軒・お下屋敷遺跡１軒・大串遺跡14軒となり，弥生時代の立地と重なる。中期では大鋸町遺跡（201-011）のみだが，６軒の住居跡と９点の古式須恵器（TK208～TK47型式）が検出されている。後期では，下畑遺跡・お下屋敷遺跡（201-010）・小仲根遺跡・梶内遺跡などから集落が検出されているが，７世紀後半の集落は台渡里遺跡一帯と大串遺跡周辺に集中する傾向がある（川口 2004・2008b）。

前期古墳では，那珂川を遡った市北の飯豊町・藤井町に前方後方墳や方形周溝墓が集中する。百合ヶ丘町の道西遺跡では前期の方形周溝墓２基が検出されている。中期古墳では，那珂川右岸に面した上市台地北縁，大鋸町遺跡（201-011）から西へ5.4kmの位置に，愛宕山古墳と姫塚古墳が存在する。後期には北屋敷古墳群・大串古墳群・酒門台古墳（201-068）が吉田台地に立地する。酒門台古墳群（201-068）が立地する荷鞍坂遺跡（201-162）では，墳丘の削平された円墳が確認されており，周溝内から多数の人物埴輪や形象埴輪が出土している。那珂川左岸の北東部には冨士山古墳群・小原内古墳群が，西部には赤塚古墳群・加倉井古墳郡・牛伏古墳群が立地している。終末期には那珂川右岸の北部にニガサワ古墳群・西原古墳群・大井古墳群，北東部に白石古墳群と権現山横穴墓群がある。吉田台地には，町付遺跡（201-235）内に立地する谷田古墳群（201-069）と，装飾古墳である吉田古墳（1号墳）を含む吉田古墳群（201-72）が立地する。全体的には舌状台地の基部や樹枝状に発達した谷頭の周辺，湧水を伴う支谷の周辺に分布する傾向がある（南田 2009a）。

奈良・平安時代　上市台地北縁部に「台渡里官衙遺跡群」が存在する。郡寺とされる台渡里廃寺跡や推定郡衙正倉院を含む台渡里官衙遺跡を筆頭に，アラヤ遺跡・渡里町遺跡・堀遺跡・西原遺跡の各遺跡は，郡庁・正倉・郡寺・集落が一体集中化した那賀郡中枢域として機能したようである（南田 2009a）。対岸には河内駅家と推測される田谷遺跡・白石遺跡が立地する。また，大串遺跡第７地点では，郡衙正倉別院とされる掘り込み総地業礎石建物３棟・正倉を区画する大型のＶ字溝，多量の炭化米が出土した大型床束掘立柱建物跡などが確認されている。隣接する梶内遺跡では100軒をこえる集落で，緑釉・灰釉陶器や墨書土器・円面硯等が出土している。川口武彦によると，大串遺跡から南東2.3km・涸沼川左岸の平戸町に推定できる平津駅家について，駅家機能を大串遺跡と分担していた可能性を指摘している（川口 2008b）。弘仁３（812）年には河内駅家は廃止され，10世紀第１四

半期には台渡里廃寺跡も廃絶するという（関口 2006）。９世紀以降には吉田神社が隆盛し，10世紀前半には吉田郡が那賀郡から独立している（水戸市史編纂委員会　1963）。近隣には，吉田神社の神宮寺として大同２（807）年に最澄が開基したと伝えられる薬王院が存在する。８～９世紀代の集落は，大鋸町遺跡（201-011）で竪穴住居跡30軒，薬王院東遺跡（201-128）で同38軒など集住傾向があり，９世紀後半には小仲根遺跡・道西遺跡など小規模集落の増加が認められるという（渥美 2008）。吉田神社を基点とした半径１kmの扇状範囲には東組・大鋸町・薬王院東遺跡が立地する。吉田神社からの距離は大串・平戸地区が6.5～8.2km，台渡里・田谷地区が7.3～7.9kmを測り，吉田神社を中心とした吉田地区は両者の中間に位置する。７世紀後半の拠点集落を継続利用した官衙・駅家・寺院・集落の複合遺跡群に対し，８世紀以降に開発あるいは再開発されて吉田地区を基盤として成立したのが，吉田神社・薬王院等の在地有力勢力との見方がある（南田 2009a）。

中世～近世　大鋸町遺跡（201-011）から北東に延びる舌状台地上には吉田城跡（201-101）が立地する。常陸大掾氏系の吉田氏が平安末期に館を構えたとの伝承がある。吉田氏とその一族の石川氏・馬場氏は鎌倉御家人の地頭職として在地支配を行った。戦国期には佐竹氏が水戸城を居城とし，拡張・整備を行った。大鋸町遺跡（201-011）からは青磁・白磁・かわらけ等が出土し，中世の堀も確認されている。河和田城跡に隣接する坏遺跡では15～16世紀の小規模集落が確認されており，水戸の中世村落研究の端緒とされている。

佐竹氏の秋田移封，武田信吉の入封を経て，慶長14（1609）年，徳川頼房の入封をもって，水戸徳川家が成立する。吉田神社遺跡の東には，近世の江戸街道が南北に走り，吉田神社を経由して下市へ至る。水戸藩をはじめ東北諸藩が参勤交代に利用する幹線道路として機能していた（関口 2008）。吉田神社遺跡の南に位置する薬王院は最澄が開基したと伝えられ，関東天台宗檀林寺として戦国期には当時の水戸城主江戸氏から，近世には歴代水戸藩主からの厚い庇護を受けていた。

（伊藤）

第３章　基本層序（第３図）

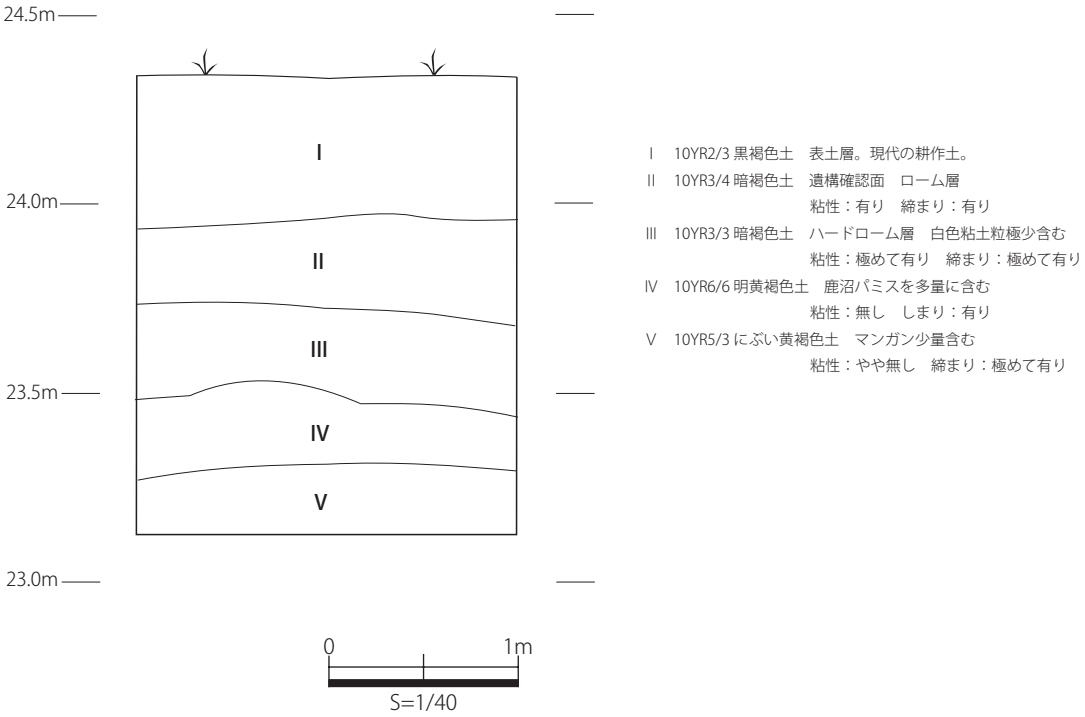
今回の調査区は舌状台地上縁辺部に位置する。調査区の地形は現地表面で，東側から西側に向かって緩やかに傾斜している。調査区壁での土層観察の結果，表土直下には中世以降の遺構覆土に類似する10YR3/4暗褐色土の堆積がみられた。また，調査区東西壁の観察から，現表面と同様に東側から西側への緩やかな傾斜が見られた。遺構はソフトローム層上面で確認された。基本土層の概要は第３図の通りである。

（伊藤）

第４章　検出された遺構と遺物

今回の調査においては，住居跡５軒，土坑 11 基，ピット（小穴）１３基が検出された。遺構の年代としては，住居跡の大半は古墳時代と考えられる。また，調査区Ｂ区での遺構は大半が中世～近世と思われる（第４図）。

なお，このうち SK06 については，現代の攪乱と判明したため欠番としている。



第３図　基本層序図

第１節　遺構と遺物

SI01（第５・６・７図）

位置・重複関係等　調査区A区C4・C5・D3・D4・D5・E4・E5ブロックに位置する。東部にてSI05を切っている。確認面はソフトローム層上面である。

形態　カマドを持つ隅丸方形。カマドの煙道は短い。カマドを通る長軸方向に6.80m，短軸方向に6.54m，確認面から床面までの深さは0.45～0.32mを測る。主軸方向はN-42°-W。広い範囲硬化面を持つ。主柱穴のピットを４基，柱穴ピット２基，硬化面下のピット３基を計９基を検出。

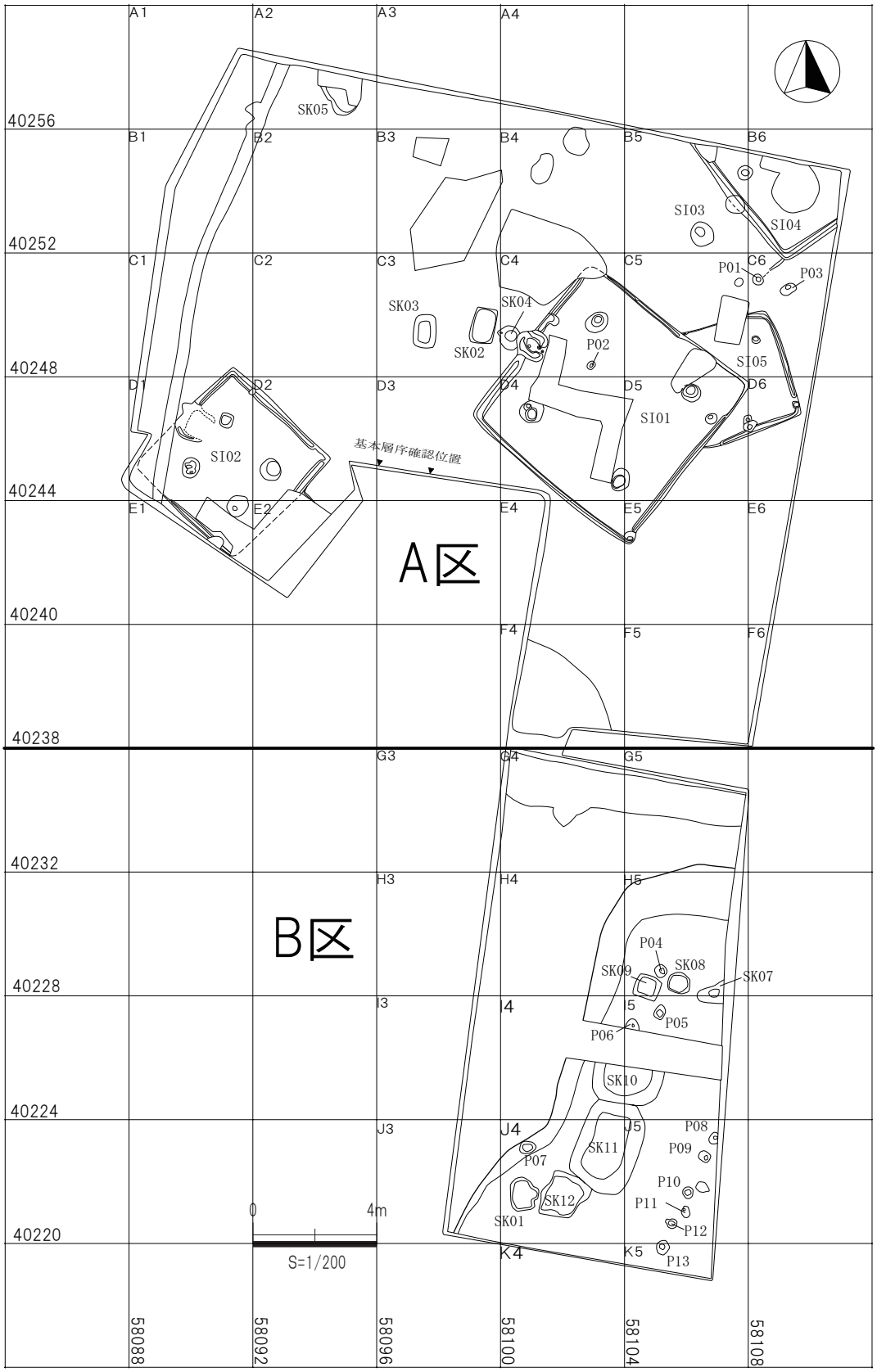
覆土　現代の建物跡の攪乱が著しいが，覆土にローム粒が混入することなどから人為堆積と思われる。

遺物　１，４は黒色処理されているが，３を含めてヘラ磨きによる調整が著しい。２は口縁部がほぼ直立している。内外面はヘラ磨きが主体であろう。５は外面がヘラ削り，内面が撫でおよび磨きといった調整の主体が大別される。６は胴部上半の「く」の字に屈曲した作りが特徴的で，カマド袖近辺の出土状況から，９や10と共にカマドで利用されたものであろう。10のおそらく下方で使用した側は，黒く煤けた跡が明瞭で，支脚全体は被熱により赤化している。上部がやや曲がっているが，使用に応じた形状と思われる。

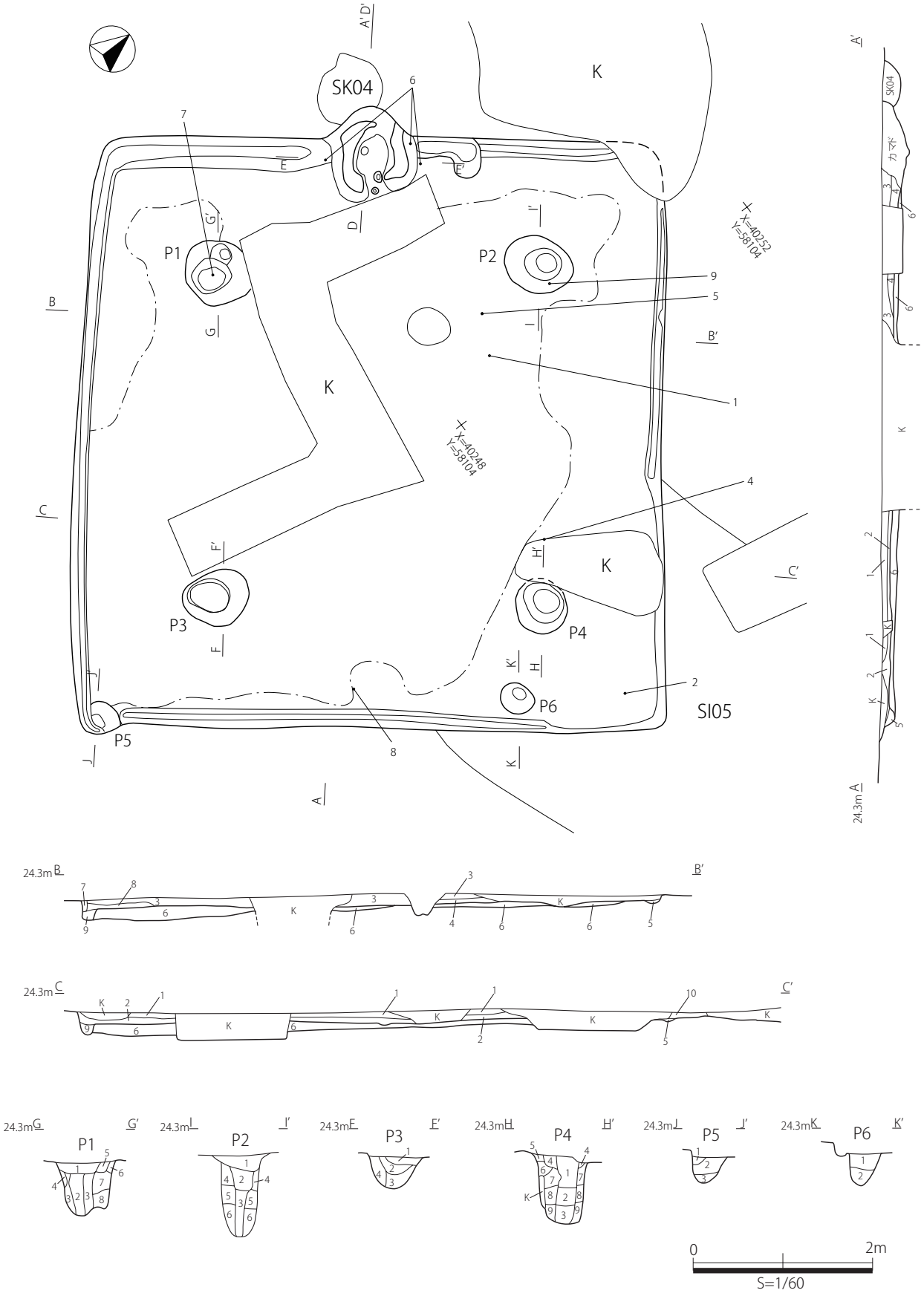
11 から 20 は弥生土器で，本住居跡の年代を示すものではないが，周辺の事例を考える上で重要な資料となりかねないので，ここに抽出した。12 は櫛状工具による横走位の櫛描文，13，16 は横走波状文，14 ～ 15，17 は羽状縄文，19 は横走位の櫛描文および山形の櫛描文，20 は斜め方向の櫛描文がそれぞれ施される。いずれも細片であり，全体の文様構成などの復元は不可能である。

時期　１～９の出土から，古墳時代後期（６世紀後半）と判断される。

所見等　遺構内の攪乱がひどく，残っている覆土も薄い状態であったが，床面の残存状況は良く硬化


A1
A2
A3
A4
B1
B2
B3
B4
B5
B6
C1
C2
C3
C4
C5
C6
D1
D2
D3
D4
D5
D6
E1
E2
E4
E5
E6
F4
F5
F6
G3
G4
G5
H3
H4
H5
I3
I4
I5
J3
J4
J5
K4
K5
40256
40252
40248
40244
40240
40238
40232
40228
40224
40220
58088
58092
58096
58100
58104
58108
SK05
SI03
SI04
P01
P03
SK03
SK04
SK02
P02
SI05
SI01
SI02
基本層序確認位置
A区
B区
P04
SK09
SK08
SK07
P05
P06
SK10
P08
SK11
P09
P07
P10
SK12
P11
SK01
P12
P13
0
4m
S=1/200

第４図　調査区平面図



第５図　SI01 平面図及び断面図

SI01

1　10YR3/3 暗褐色土　　ローム粒少量，焼土粒・炭化物粒微量含む　粘性：有り　締まり：有り
2　10YR3/4 暗褐色土　　ローム粒中量，ロームブロック少量，焼土粒・炭化物粒微量含む　粘性：有り　締まり：有り
3　10YR2/3 黒褐色土　　ローム粒・ロームブロック少量，砂質粘土粒・炭化物粒微量含む　粘性：有り　締まり：有り
4　10YR4/4 褐色土　　ローム粒中量，ロームブロック・焼土粒少量含む　粘性；有り　締まり：有り
5　10YR4/4 褐色土　　ローム粒・ロームブロック中量含む　粘性：有り　締まり：有り
6　10YR6/8 明黄褐色土　ローム粒・ロームブロック多量含む 粘性：有り　締まり：有り
7　10YR5/6 黄褐色土　　ローム粒多量，ロームブロック少量含む　粘性：有り　締まり：有り
8　10YR6/6 明黄褐色土　ローム粒・灰白色粘土ブロック中量，ロームブロック少量含む　粘性：有り　締まり：有り
9　10YR4/4 黒褐色土　　ローム粒・ロームブロック中量含む 粘性：有り　締まり：有り
10　10YR3/4 暗褐色土　　ローム粒少量，ロームブロック・焼土粒微量含む　粘性：有り　締まり：強い

P01

1　10YR2/3 黒褐色土　ローム粒少量，焼土ブロック・焼土粒・炭化物粒微量含む　粘性：有り　締まり：有り
2　10YR2/2 黒褐色土　ローム粒・鹿沼パミス少量，焼土粒微量含む　粘性：有り　締まり：有り
3　10YR3/4 暗褐色土　ロームブロック多量，ローム粒・鹿沼パミス少量含む　粘性：やや無し　締まり：やや無し
4　10YR5/8 黄褐色土　ロームブロック・ローム粒多量含む　粘性：有り　締まり：有り
5　10YR3/3 暗褐色土　ロームブロック・鹿沼パミス・焼土粒少量含む　粘性：有り　締まり：有り
6　10YR5/6 黄褐色土　ロームブロック・ローム粒多量，鹿沼パミス少量含む　粘性：有り　締まり：有り
7　10YR4/4 褐色土　　ロームブロック多量，ローム粒・焼土粒・鹿沼パミス少量含む　粘性：やや無し　締まり：有り
8　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・鹿沼パミス少量含む　粘性：有り　締まり：有り

P02

1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・鹿沼パミス・焼土粒微量含む　粘性：有り　締まり：有り
2　10YR2/3 黒褐色土　ローム粒・鹿沼パミス少量含む　粘性：有り　締まり：やや無し
3　10YR2/2 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック微量含む　粘性：有り　締まり：やや無し
4　10YR5/8 黄褐色土　ローム粒多量，鹿沼パミス微量含む　粘性：有り　締まり：有り
5　10YR4/4 褐色土　　ローム粒中量含む　粘性：有り　締まり：有り
6　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・鹿沼パミス微量含む　粘性：有り　締まり：やや無し

P03

1　10YR3/2 黒褐色土　ロームブロック・ローム粒少量含む　粘性：有り　締まり：やや無し
2　10YR3/3 暗褐色土　ロームブロック・ローム粒中量含む　粘性：有り　締まり：やや無し
3　10YR3/4 暗褐色土　ロームブロック・ローム粒中量含む　粘性：有り　締まり：やや無し
4　10YR5/8 黄褐色土　ローム粒多量含む　粘性：有り　締まり：有り

P04

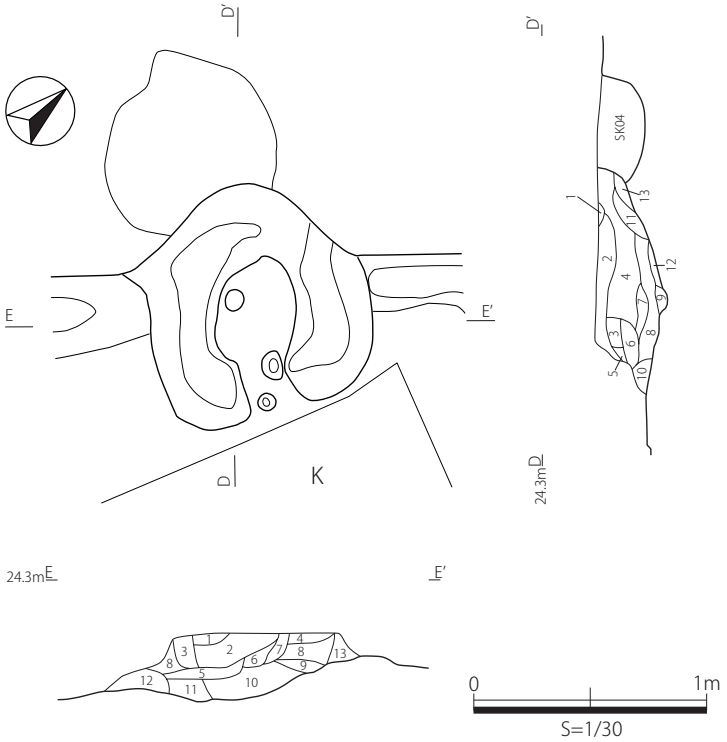
1　10YR2/3 黒褐色土　ローム粒・鹿沼パミス少量含む　粘性：強い　締まり：強い
2　10YR4/4 褐色土　　ローム粒中量，鹿沼パミス微量含む　粘性：有り　締まり：有り
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒少量含む　粘性：有り　締まり：有り
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒少量含む　粘性：強い　締まり：強い
5　10YR5/3 にぶい黄褐色土　ローム粒中量，灰白色粘土粒少量含む　粘性：有り　締まり：有り
6　10YR5/8 黄褐色土　ローム粒多量，ロームブロック少量含む　粘性：有り　締まり：有り
7　10YR6/6 明黄褐色土　ロームブロック多量，ローム粒中量，鹿沼パミス少量含む　粘性：有り　締まり：有り
8　10YR4/4 褐色土　　ローム粒中量含む　粘性：やや無し　締まり：有り
9　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒中量含む　粘性：やや無し　締まり：有り

P05

1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック中量，黒色土粒少量含む　粘性：有り　締まり：有り
2　10YR2/2 黒褐色土　ロームブロック中量，ローム粒少量含む　粘性：有り　締まり：有り
3　10YR5/6 黄褐色土　ロームブロック多量含む　粘性：有り　締まり：有り

P06

1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック少量含む　粘性：有り　締まり：有り
2　10YR3/3 暗褐色土　ロームブロック中量，ローム粒少量含む　粘性：有り　締まり：有り



第６図　SI01 カマド平面図及び断面図

SI01 カマド D-D'

1 10YR6/2　灰黄褐色土　砂質土　粘性：無し　締まり：やや有り

2 10YR3/3　暗褐色土　灰白色砂粒多量含む
　粘性：やや有り　締まり：やや無し

3 10YR4/6　褐色土　焼土粒極少含む
　粘性：やや有り　しまり：やや無し

4 10YR4/4　褐色土　砂質土　灰白色砂ブロック多量、焼土粒極少含む
　粘性：やや無し　締まり：やや無し

5 7.5Y7/1　灰白色土　砂質土　I3 ブロック含む
　粘性：無し　締まり：やや有り

6 10YR3/2　黒褐色土　焼土粒少量含む
　粘性：やや有り　締まり：やや無し

7 10YR3/3　暗褐色土　砂質土　焼土粒多量含む
　粘性：やや有り　締まり：やや有り

8 10YR3/2　黒褐色土　砂質土　灰白色砂粒・焼土粒少量含む
　粘性：やや有り　締まり：やや有り

9 10YR2/2　黒褐色土　砂質土　灰白色砂粒少量含む
　粘性：やや有り　締まり：やや有り

10 10YR3/3　暗褐色土　焼土ブロック（φ2cm）多量含む
　粘性：やや無し　締まり：やや有り

11 10YR2/2　黒褐色土　砂質土　焼土粒・灰白色砂粒少量含む
　粘性：やや無し　締まり：やや有り

12 10YR3/3　暗褐色土　砂質土　ローム粒極少含む
　粘性：やや無し　締まり：やや有り

13 7.5Y7/1　灰白色土　粘土　暗褐色土粒少量含む
　粘性：極めて有り　締まり：極めて有り

14 10YR5/6　黄褐色土　ローム粒多量含む
　粘性：極めて有り　締まり：極めて有り

SI01 カマド E-E'

1 10YR3/3　暗褐色土　灰白色砂粒多量含む
　粘性：やや有り　締まり：やや無し

2 10YR4/4　褐色土　砂質土　灰白色砂ブロック多量，焼土粒極少含む
　粘性：やや無し　締まり：やや無し

3 10YR3/3　暗褐色土　灰白色砂粒・焼土粒少量含む
　粘性：有り　締まり：有り

4 7.5Y7/1　灰白色土　焼土粒・暗褐色土ブロック少量含む
　粘性：無し　締まり：強い

5 10YR3/3　暗褐色土　焼土ブロック（φ1cm）・焼土粒少量含む
　粘性：有り　締まり：有り

6 10YR3/1　黒褐色土　砂質土　灰白色砂粒・焼土粒・鹿沼パミス少量含む
　粘性：やや無し　締まり：やや無し

7 10YR3/2　黒褐色土　砂質土　灰白色砂粒・焼土粒多量含む
　粘性：やや無し　締まり：やや無し

8 7.5Y7/1　灰白色土　焼土ブロック・暗褐色土ブロック（φ1cm）少量，
　青灰色砂粒極少含む　粘性：無し　締まり：強い

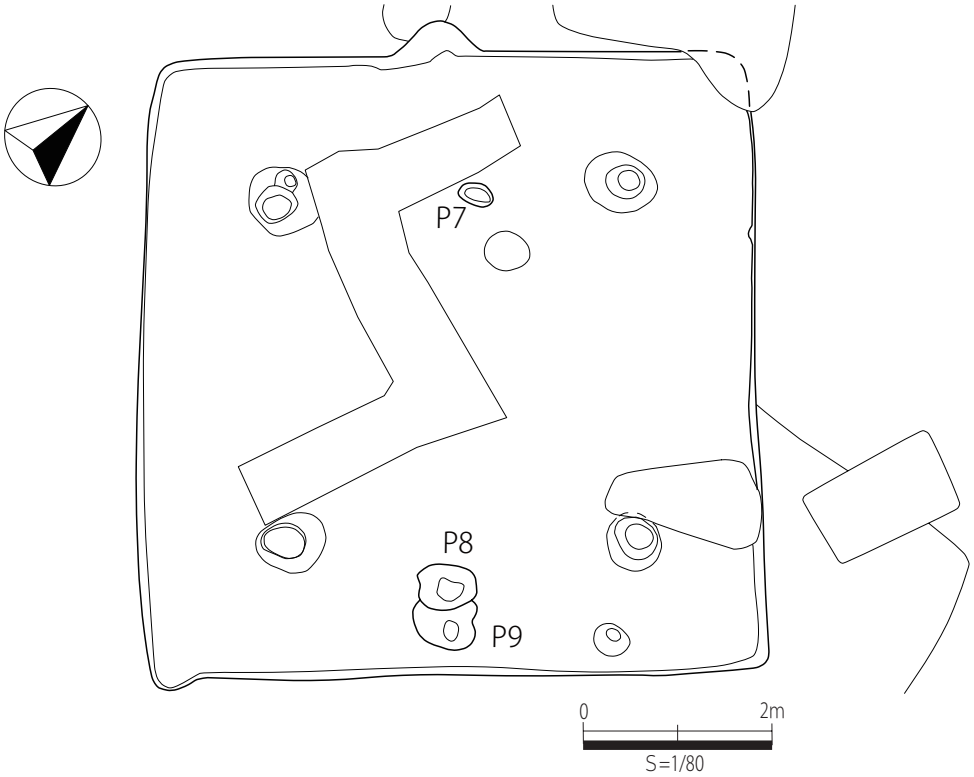
9 10YR3/1　黒褐色土　ロームブロック多量含む
　粘性：有り　締まり：強い

10 10YR3/1　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック少量，焼土粒極少含む
　粘性：有り　締まり：有り

11 10YR4/4　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒少量，焼土粒極少含む
　粘性：有り　締まり：有り

12 10YR4/4　暗褐色土　ローム粒多量，焼土粒極少含む
　粘性：やや有り　しまり：有り

13 10YR3/1　黒褐色土　灰白色砂ブロック少量，焼土粒・青灰色砂粒極少含む
　粘性：無し　締まり：有り



第７図　SI01 掘り方平面図

第１表　SI01 遺物観察表

No	出土地点			出土遺物			口径	最大径	底径	器高	残存率(	重量g)	特徴・手法	時代	胎土鉱物	海綿骨針	焼成	色調	備考
	遺構	ブロック	層位	種別	器種	部位													
1	SI01	C5	-	土師器	坏	口～底	<12.4>	-	2	4.7	65	103	外面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラミガキ	古墳	緻密 石英	-	良好	外：10YR6/4にぶい黄燈色 内：10Y2/1黒色	内面黒色処理
2	SI01	D5	-	土師器	坏	口～底	<18.0>	-	-	(2.5)	10	24	外面：口縁部ヘラミガキ 体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	古墳	緻密 石英	-	良好	10YR5/3にぶい黄褐色	
3	SI01	C4	-	土師器	坏	口～底	<16.2>	-	-	(4.1)	20	27	外面：口縁部～体部上半ヘラミガキ 体部下半～底部ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ	古墳	緻密 石英	-	良好	7.5YR5/3にぶい褐色	
4	SI01	D5	-	土師器	坏	口～底	<12.8>	-	-	3.7	45	79	外面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面ヨコナデ後ヘラミガキ	古墳	緻密 石英	-	良好	外：7.5YR5/4にぶい褐色 内：7.5YR3/2黒褐色	
5	SI01	C4	-	土師器	坏	口～底	<13.1>	-	-	4.2	60	152	外面：ヘラケズリ後ヨコナデ後ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	外：10YR3/1黒褐色 内：10Y6/4にぶい黄燈色	
6	SI01 カマド	C4	-	土師器	甕	胴部	<19.0>	-	-	(19.0)	30	332	外面：口縁部～頸部ヨコナデ 体部上半ヘラケズリ　体部下半ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部～体部上半ヘラナデ　体部下半ヘラナデ後ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR4/3にぶい黄褐色	スス付着
7	SI01-P1	D4	-	土師器	甕	口～胴	<15.0>	-	-	(12.2)	15	165	外面：口縁部～頸部ヨコナデ　体部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ　体部ヘラナデ後ヘラケズリ	-	緻密 石英 長石	-	良好	10YR6/4にぶい黄燈色	
8	SI01-P9	D5	-	土師器	甕	底部	-	-	-	(2.0)	10	39	外面：ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：ヘラナデ後ヘラミガキ	-	緻密 石英 長石	-	普通	10YR6/4にぶい黄燈褐色	底部外面ヘラ記号
9	SI01-P2	C4	-	土師器	甑	口縁部	<19.8>	-	-	(5.6)	10	44	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ　体部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ　体部ヘラナデ後ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	○	良好	10YR5/3にぶい黄褐色	

No	出土地点			出土遺物			口径	最大径	底径	器高	残存率(	重量g)	特徴・手法	時代	胎土鉱物	海綿骨針	焼成	色調	備考
	遺構	ブロック	層位	種別	器種	部位													
10	SI01 カマド	C4	-	土製品	カマド支脚	-	-	-	6.5	20.5	100	996		-	緻密 石英 長石	-	良好	10YR6/3にぶい黄燈色	被熱
11	SI01	C4	-	弥生土器	壷	口縁部	-	-	-	(3.5)	5	13		弥生	緻密 石英 長石	-	良好	7.5YR6/6燈色	
12	SI01	D5	-	弥生土器	壷	頸部	-	-	-	(4.3)	5	15	櫛描波状文	弥生	緻密 石英 長石	-	良好	10YR７/4にぶい黄燈色	
13	SI01-P9	D5	-	弥生土器	壷	口縁部	-	-	-	(4.6)	5	13	櫛描文	弥生	緻密 石英 長石	-	良好	10YR5/3にぶい黄褐色	
14	SI01	D5	-	弥生土器	壷	口縁部	-	-	-	(3.2)	5	12		弥生	緻密 石英 長石	-	良好	5YR5/6明赤褐色	
15	SI01-P2	C4	-	弥生土器	壷	底部	-	-	<6.6>	(2.3)	5	14		弥生	緻密 石英 長石	-	良好	10YR5/3にぶい黄褐色	
16	SI01	C4	-	弥生土器	壷	口縁部	-	-	-	(3.2)	5	12	櫛描波状文	弥生	緻密 石英 長石	-	良好	10YR5/3にぶい黄褐色	
17	SI01	-	-	弥生土器	壺	底部	-	-	<3.4>	(2.0)	5	10		弥生	緻密 石英 長石	-	普通	7.5YR4/6褐色	
18	SI01	D4	-	弥生土器	壺	胴部	-	-	-	(3.4)	5	12		弥生	緻密 石英 長石	-	普通	10YR7/4にぶい黄燈色	
19	SI01	D4	-	弥生土器	壺	頸部	-	-	-	(3.3)	5		櫛描文・山形櫛描文	弥生	緻密 石英 長石	-	普通	10YR6/4にぶい黄燈色	
20	SI01	D4,C5	-	弥生土器	壺	頸部	-	-	-	-	5	19		弥生	緻密 石英 長石	-	普通	10YR4/2灰黄褐色	

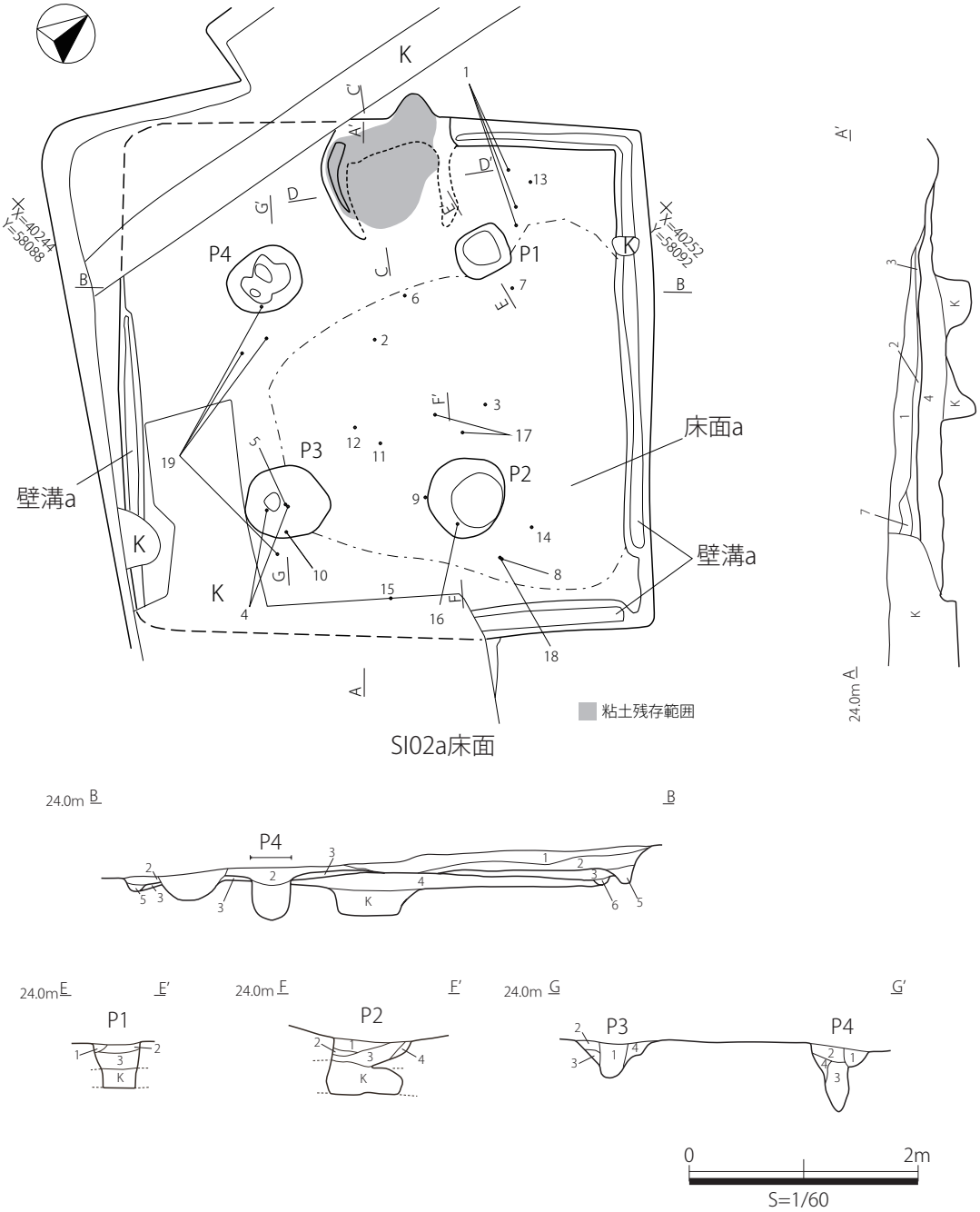
面が広い範囲で確認できた。また，弥生土器11～20の出土から，周辺に弥生時代最終末期に帰属する集落の存在が示唆される。SI03，SK04はその好例であろう。

SI02（第９・10・11図）

位置・重複関係等　調査区A区C1・D1・D2・E1・E2ブロックに位置し，南部は攪乱により一部床面・壁面が破壊されている。確認面はソフトローム層上面である。

形態　北西壁中央にカマドを持ち，平面形は隅丸方形を呈する。カマドの煙道はSI01同様に短い。規模は長軸方向に4.60m，短軸方向に4.42mを測る。床面を2面持ち，確認面からの深さは床面aまでが0.05～0.16m，床面bまでが0.09m～0.26mを測る。主軸方向はN-45°-Wである。壁溝は新旧２条を確認した。竪穴は１度拡張されており，壁溝bが旧竪穴の外形を示している。壁溝aは部分的に途切れるものの全周し，深さ0.06m～0.13mを測る。壁溝bは北東から東部にかけて認識され，深さは0.05～0.08mを測る。平面的には壁溝aと平行に一回り小さく廻る。カマドは後世に攪拌されており原形は留めない。柱穴は主柱穴を４基確認した（各深度：P1…0.37m，P2…0.49m，P3…

第８図　SI01 出土遺物



SI02

1　10YR3/2 黒褐色土　　ローム粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む　粘性：有り　締まり：有り

2　10YR3/3 暗褐色土　　ローム粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む　粘性：有り　締まり：有り

3　10YR6/6 明黄褐色土　ロームブロック多量、焼土粒・ローム粒少量、鹿沼パミス微量含む　粘性：有り　締まり：有り

4　10YR5/6 黄褐色土　　ローム粒・ロームブロック多量、鹿沼パミス少量含む 粘性：有り　締まり：有り

5　10YR3/4 暗褐色土　　ローム粒・ロームブロック中量、鹿沼パミス少量、炭化物微量含む 粘性：有り　締まり：有り

6　10YR2/2 黒褐色土　　ローム粒中量、ロームブロック少量含む　粘性：有り　締まり：有り

7　10YR3/2 黒褐色土　　ローム粒少量含む　粘性：有り　締まり：有り

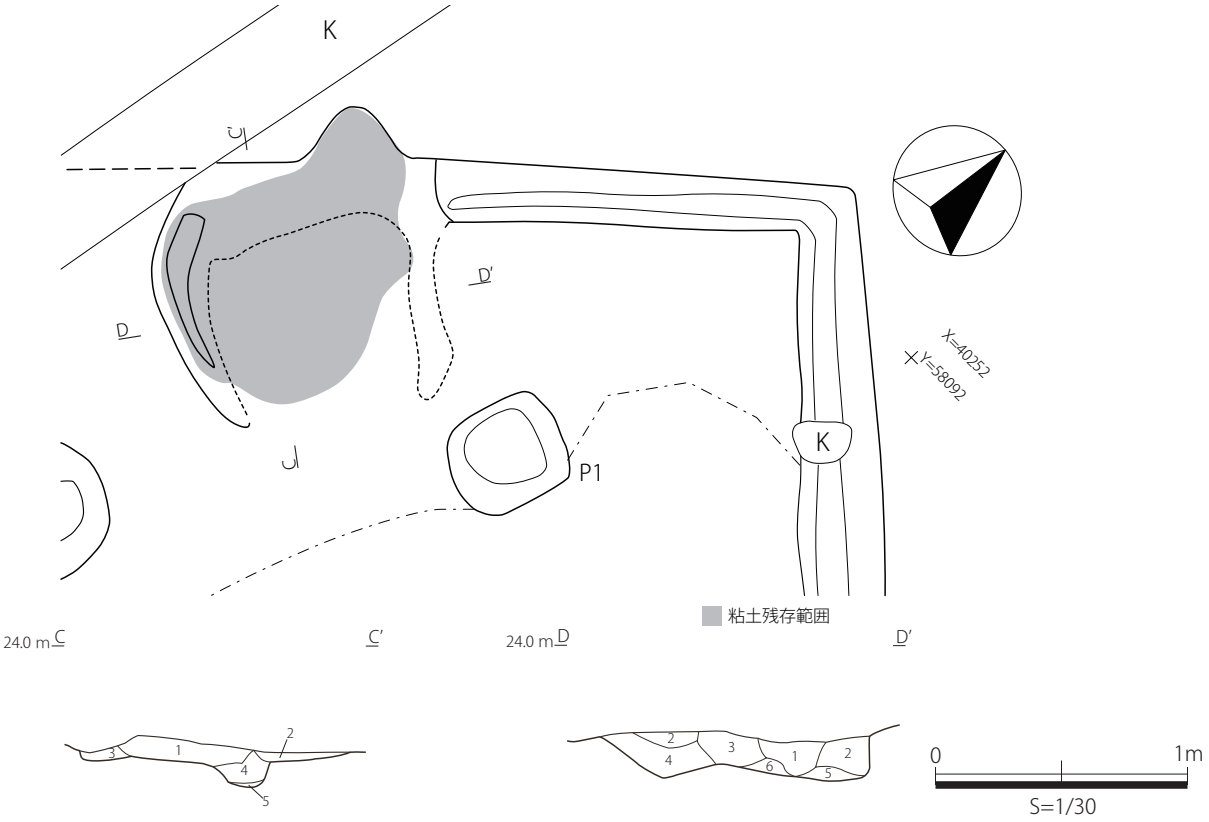
第９図　SI02a 床面平面図及び断面図

P1
1　10YR4/6 褐色土　　ローム粒少量含む　粘性：有り　締まり：有り
2　10YR3/3 暗褐色土　ロームブロック少量、鹿沼パミス微量含む　粘性：有り　締まり：有り
3　10YR2/2 黒褐色土　ロームブロック・鹿沼パミス少量含む　粘性：有り　締まり：やや無し

P2
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・黒色土粒中量、鹿沼パミス微量含む　粘性：有り　締まり：有り
2　10YR4/6 褐色土　　鹿沼パミス・ローム粒微量含む　粘性：有り　締まり：有り
3　10YR2/2 黒褐色土　黒色土粒多量、鹿沼パミス・ローム粒中量、焼土粒微量含む　粘性：有り　締まり：やや無し
4　10YR4/4 褐色土　　鹿沼パミス・ローム粒中量含む　粘性：有り　締まり：有り

P3
1　10YR3/2 黒褐色土　ロームブロック・ローム粒少量、鹿沼パミス微量含む　粘性：有り　締まり：有り
2　10YR3/3 暗褐色土　ロームブロック少量、鹿沼パミス微量含む　粘性：有り　締まり：有り
3　10YR2/2 黒褐色土　ロームブロック・鹿沼パミス少量含む　粘性：有り　しまり：やや無し

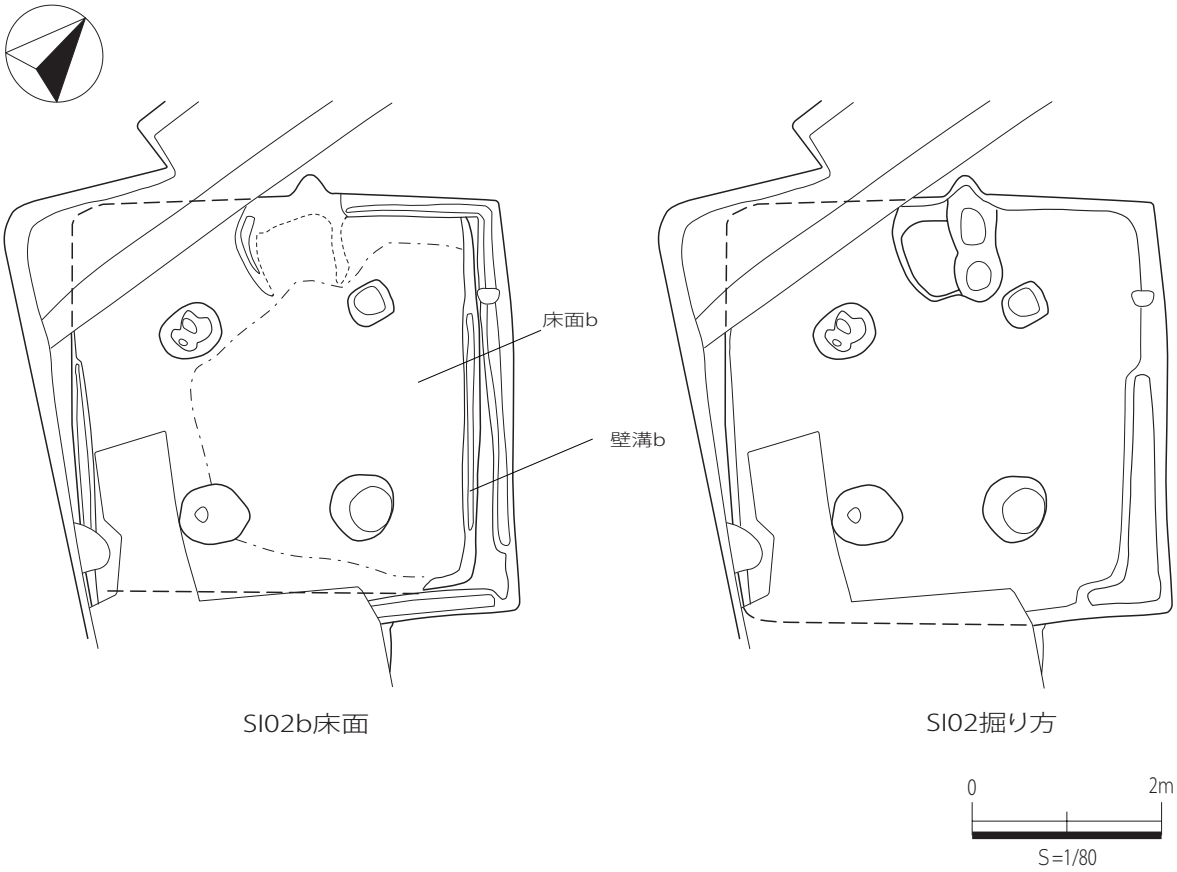
P4
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒微量含む　粘性：強い　締まり：有り
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒少量、焼土粒・炭化物微量含む　粘性：有り　締まり：有り
3　10YR2/2 黒褐色土　ロームブロック・鹿沼パミス少量含む　粘性：有り　締まり：やや無し
4　10YR4/4 褐色土　　ローム粒・鹿沼パミス中量含む　粘性：有り　締まり：有り



SI02 カマド C-C'
1　10YR3/4 暗褐色土　焼土ブロック（φ1cm）少量含む
　　粘性：やや有り　しまり：やや無し
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒少量含む
　　粘性：やや有り　しまり：やや無し
3　10YR3/4 暗褐色土　白色粘土ブロック多量含む
　　粘性：やや有り　しまり：有り
4　10YR3/4 暗褐色土　焼土粒・ローム粒少量含む
　　粘性：やや有り　しまり：やや無し
5　10YR3/3 暗褐色土　ロームブロック多量含む
　　粘性：やや有り　しまり：有り

SI02 カマド D-D'
1　10YR3/4 暗褐色土　焼土粒少量含む
　　粘性：やや有り　しまり：やや無し
2　7.5Y7/1 灰白色土　粘土層　焼土粒少量含む
　　粘性：有り　しまり：極めて有り
3　10YR3/4 暗褐色土　焼土ブロック（φ1cm）多量含む
　　粘性：やや有り　しまり：有り
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒少量含む
　　粘性：やや有り　しまり：やや無し
5　10YR3/3 暗褐色土　ロームブロック多量含む
　　粘性：やや有り　しまり：やや有り
6　10YR6/6 明黄褐色　暗褐色土粒少量含む　粘性：有り　しまり：有り

第 10 図　SI02 カマド平面図及び断面図

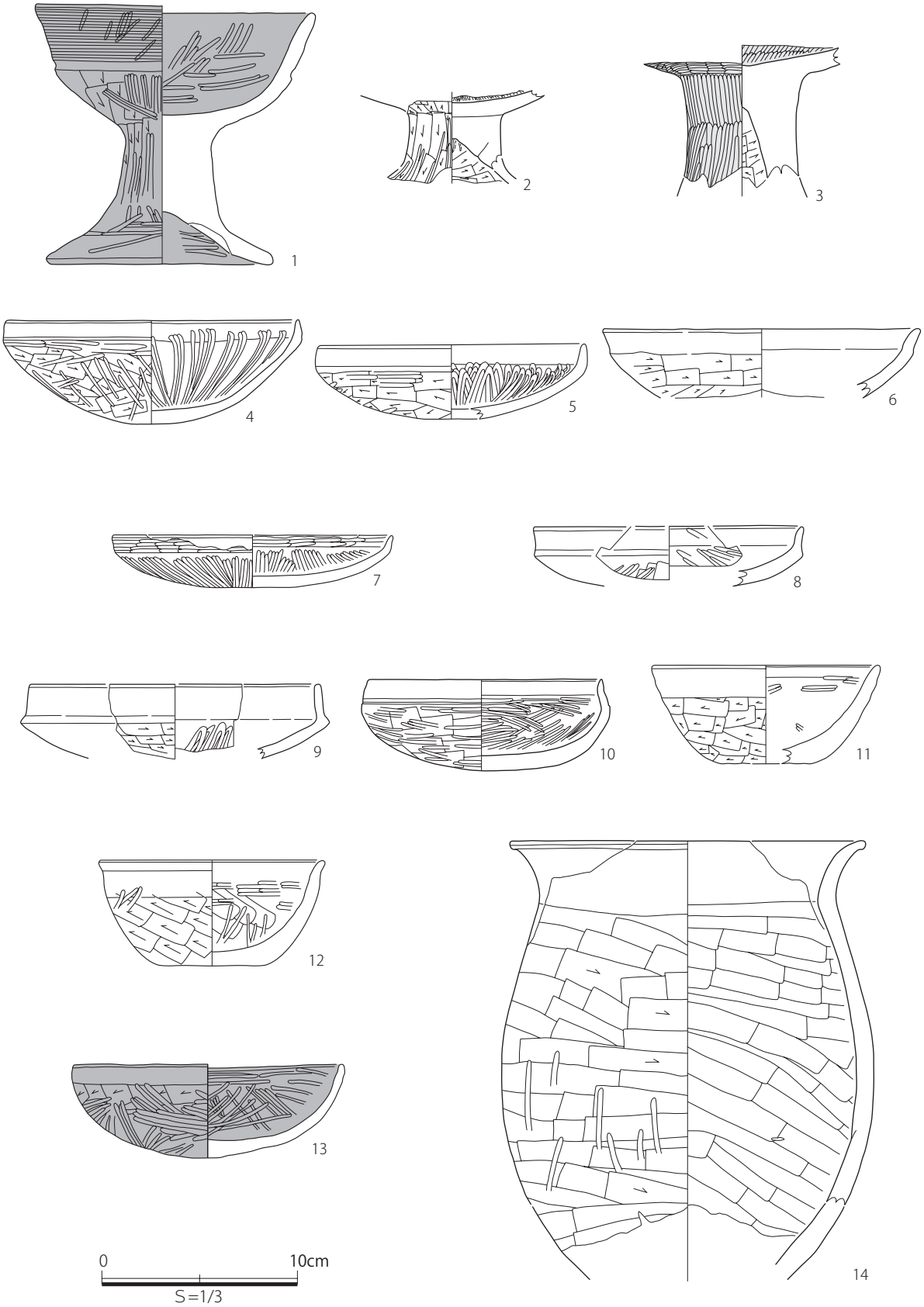


第 11 図　SI02b 床面・掘り方平面図

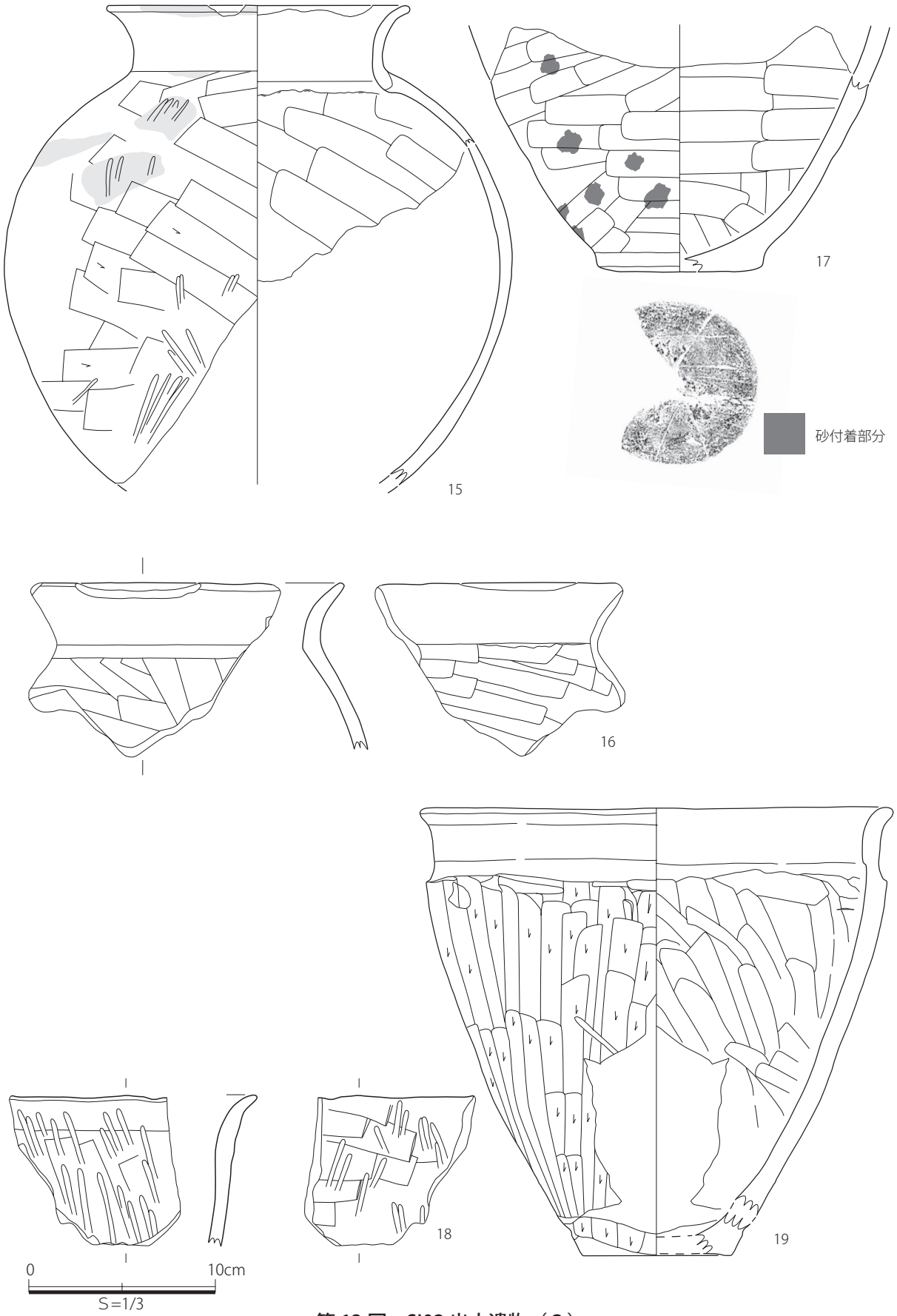
0.32m，P4…0.5m）。いずれも床面aから掘り込まれ，P3，P4には柱痕が認められる。床面aは北東から南西へやや傾斜し，中央部から東部にかけて硬化する。床面bは北側にやや広く，カマド付近まで硬化する。堀り方には凸凹があり，東部は壁溝bの付近で階段状を成す。北部から南東部はアナグマ等の動物により，主に床面下の攪乱を広範囲に受けている。

覆土　自然堆積と思われる。

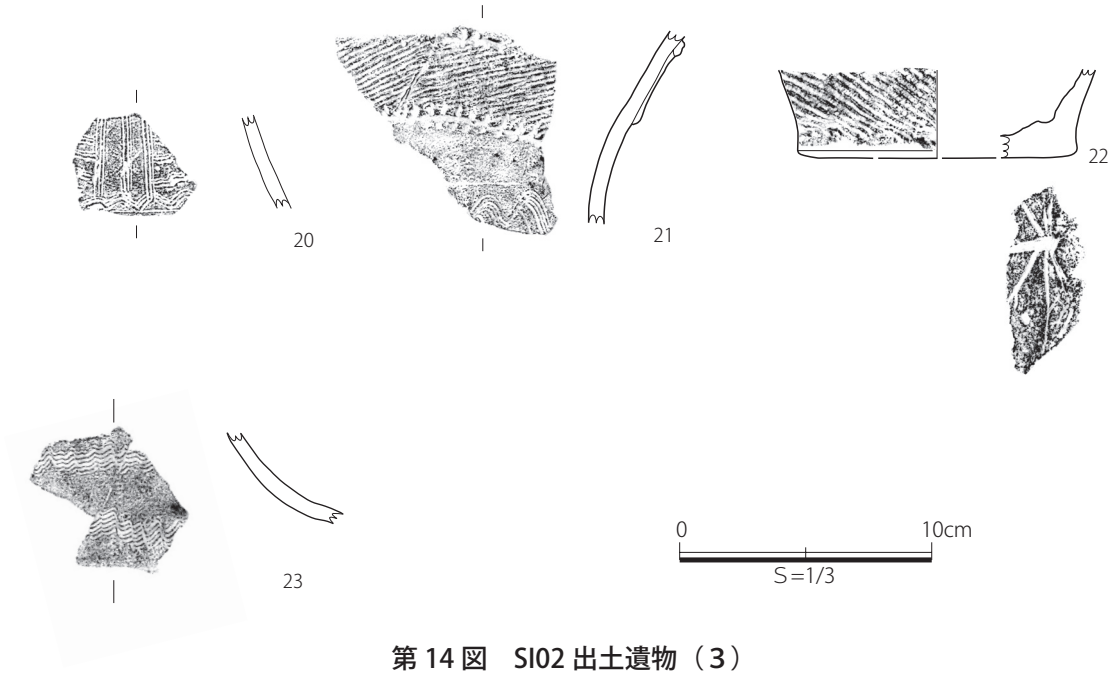
遺物　本住居跡からは破片資料を含むと，全住居跡中で最も豊富に遺物が出土している。１，13は内外面黒色処理されている。部分的出土で断定はできないが，２の外面もおそらく黒色処理と思われる痕跡が認められる。１については，ヘラまたは工具による口縁部のナデ調整が緻密である。３は赤彩で，重厚な作りからカマド内の支脚に転用された可能性がある。４，５，７，10はヘラ磨きが著しく，特に７については器高の割合から，他の土師器に比べ，時間的にやや後続するものであろう。11，12は碗形に近いが，平底でしっかりとした作りである。11は横方向，12は斜め下方から上方へのヘラ削りで，調整が一定である上に，内面は２次的にヘラ磨きもある点から精製品と言えよう。14～17はこの時期を特色づけるものである。14はヨコおよび斜め方向の削りを基本とするが，外面はかすかにヘラによる磨きあるいは撫での中途な調整が認められる。15は球胴を呈し，中心となる時期よりやや古相を示す。調整は14とほぼ同様である。17は確認された範囲で，器の下方に砂の付着が認められ，カマドで使用された可能性が高い。底部は木葉痕と思しき圧痕が認められる。19は底部がほとんど欠損しており，断定はできないが仮に甕として作られたとすると，甑への転用が考え



第 12 図　SI02 出土遺物（1）



第 13 図　SI02 出土遺物（2）



第 14 図　SI02 出土遺物（3）

第２表　SI02 遺物観察表

No	出土地点			出土遺物			口径	最大径	底径	器高	残存率(	重量g)	特徴・手法	時代	胎土鉱物	海綿骨針	焼成	色調	備考
	遺構	ブロック	層位	種別	器種	部位													
1	SI02	D1	-	土師器	高坏	坏部～脚部	14.2	-	11.3	13.4	100	617	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ 体部～脚部ヘラケズリ後ヘラミガキ　脚部下部ヨコナデ後ヘラミガキ 内面：坏部ヨコナデ後ヘラミガキ脚部ヨコナデ後ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR3/1黒褐色	内・外面黒色処理
2	SI02	D1	-	土師器	高杯	坏部～脚部	-	-	-	(5.3)	30	141	外面：坏部～脚部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ　脚部ヘラケズリ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR3/2黒褐色	
3	SI02	D2	-	土師器	高坏	坏部～脚部	-	-	-	(8.2)	35	306	外面：ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ 脚部ヘラケズリ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	5YR4/6赤褐色	赤彩
4	SI02-P3	E1	-	土師器	坏	口～底	<14.9>	-	-	(5.3)	70	209	外面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR5/3にぶい黄褐色	
5	SI02-P3	E1	-	土師器	坏	口～底	-	-	-	-	75	234	外面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR5/4にぶい黄褐色	
6	SI02	D1	-	土師器	坏	口縁部	<16.1>	-	-	-	20		外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好		
7	SI02	D1	-	土師器	坏	口～底	<15.8>	-	-	3.0	15	77	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ 体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ　体部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR3/2黒褐色	
8	SI02	D2	-	土師器	坏	口～底	<14.0>	-	-	(2.7)	25	39	外面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 ヨコナデ後ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	7.5YR6/6燈色	
9	SI02	D2	-	土師器	坏	口～底	<7.9>	-	-	(3.8)	15	36	外面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR3/2黒褐色	

No	出土地点			出土遺物			口径	最大径	底径	器高	残存率	重量(g)	特徴・手法	時代	胎土鉱物	海綿骨針	焼成	色調	備考
	遺構	ブロック	層位	種別	器種	部位													
10	SI02	E1	-	土師器	坏	口～底	13.2	-	-	5.2	97	309	外面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 ヨコナデ後ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR6/3にぶい黄燈色	
11	SI02	D1	-	土師器	坏	口～底	<12.7>	-	<5.8>	(5.6)	17	73	外面：口縁部ヨコナデ　体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 ヨコナデ後ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	普通	10YR6/4にぶい黄燈色	
12	SI02	D1	-	土師器	坏	口～底	<12.2>	-	<6.0>	6.0	10	204	外面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ　体部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR4/6褐色	内外面スス付着
13	SI02	D1	-	土師器	坏	口～底	15.2	-	-	5.3	80	313	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ 体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 ヨコナデ後ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR3/1黒褐色	内・外面黒色処理
14	SI02	D2	-	土師器	甕	胴部	<20.2>	-	-	(25.0)	25	609	外面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：体部ヘラナデ	古墳	緻密 石英 長石	-	普通	10YR5/4にぶい黄褐色	外面スス付着 球状
15	SI02	E2	-	土師器	甕	口～胴	17.8	-	-	(28.4)	65	2,020	外面：口縁部ヨコナデ 胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ　胴部ヘラナデ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR5/4にぶい黄褐色	赤彩 球状
16	SI02	D2	-	土師器	甕	口～胴	<22.0>	-	-	(10.0)	10	175	外面：口縁部～頸部ヨコナデ　体部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR6/4にぶい黄燈色	口縁部・胴部外面スス付着
17	SI02	D2	-	土師器	甕	胴～底	-	-	<9.8>	(14.7)	25	778	外面：ヘラナデ 内面：ヘラナデ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR5/4にぶい黄褐色	内外面スス付着 底部木葉痕
18	SI02	D2	-	土師器	甕カ甑	口～胴	-	-	-	(8.1)	10	91	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部～胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR5/4にぶい黄褐色	
19	SI02	D2	表土	土師器	甕カ甑	体～底	<24.8>	-	-	<23.9>	35		外面：口縁部回転ナデ 体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ 体部板ナデ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好		
20	SI02	D1	-	弥生土器	壷	頸部	-	-	-	(3.7)	5	16	櫛描文	弥生	緻密 石英 長石	-	普通	10YR4/2灰黄褐色	
21	SI02	D1	-	弥生土器	壷	頸部	-	-	-	(7.9)	5	60	複合口縁	弥生	緻密 石英 長石	-	普通	10YR5/3にぶい黄褐色	
22	SI02	D2	-	弥生土器	壺	底部	-	-	<11.0>	(3.5)	5	73	底部木曜痕	弥生	緻密 石英 長石	-	普通	10YR5/3にぶい黄褐色	
23	SI02	D2	-	弥生土器	壺	頸部	-	-	-	(4.5)	5	31	櫛描波状文	弥生	緻密 石英 長石	-	普通	10YR4/3にぶい黄褐色	

られる。口縁におけるヘラナデが顕著である。

弥生土器については本住居跡の年代を示すものではないが，20～23以外にも破片資料で多く出土している。20は3本の櫛状工具による縦方向の施文が成される。21はキザミを挟んで上部に羽状縄文，下部に横走波状文が複合的に施される。22は底部近く下方に羽状縄文よる施文で，底部には木葉痕と思しき圧痕がある。23は横走波状文が２条認められる。

時期　20～23を除く出土遺物から，古墳時代後期（６世紀後半）と判断される。

所見等　遺物は床面中の硬化面を主として主要遺物がまとまっている。撹乱による破壊を受けているが，濃密な遺物出土量および2面確認された生活面と把握される硬化面の存在から，長期的かつ中心的に機能した住居と考えられる。

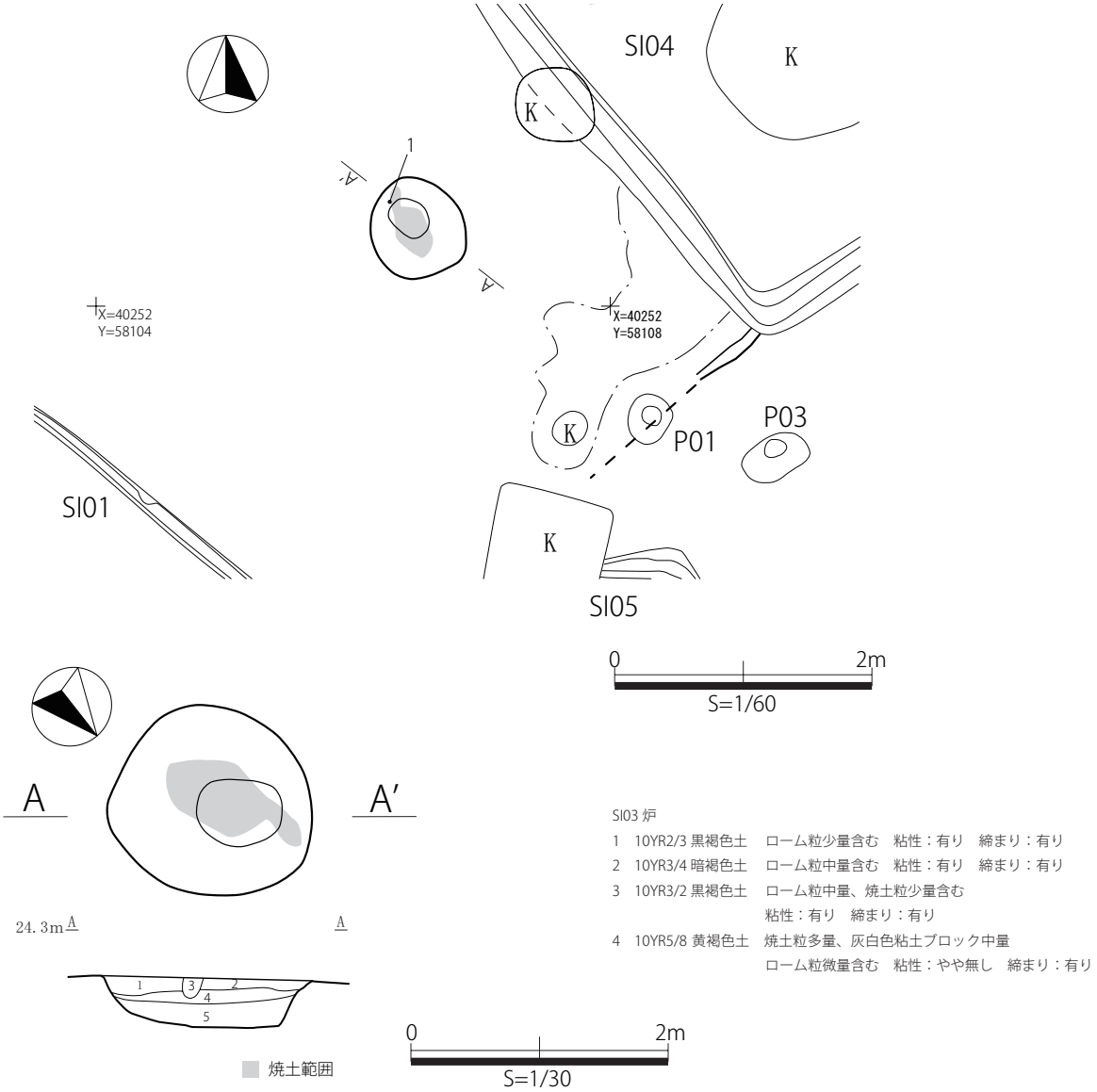
SI03（第１５図）

位置・重複関係等　調査区A区B5・B6・C5・C6ブロックに位置する。硬化面がSI04に切られている。硬化面の確認面はソフトローム層上面である。

形態　詳細な形態・規模は不明である。炉跡があり，炉跡から南東方向に硬化面と僅かに壁の痕跡が残る。残存状況では，炉跡の中心から残存壁までの長さ2.50mを測る。

覆土　確認できず。

遺物　１は附加条２種（付加１状）による調整である。



第 15 図　SI03 平面図及び断面図・炉平面図及び断面図

第 16 図　SI03 出土遺物

第３表　SI03 遺物観察表

No	出土地点			出土遺物			口径	最大径	底径	器高	残存率	重量(g)	特徴・手法	時代	胎土鉱物	海綿骨針	焼成	色調	備考
	遺構	ブロック	層位	種別	器種	部位													
1	SI03炉	B5	-	弥生土器	壷	胴部	-	-	-	(4.6)	5	23	附加条二種	弥生	緻密 石英 長石	-	普通	10YR5/6黄褐色	

時期　出土遺物および炉跡の存在から弥生時代終末期から古墳時代初頭（３世紀代）と判断される。

所見等　南東側にわずかに壁らしき痕跡が検出される。SI04と重複関係にあり，SI04に切り取られる様相である。また，SI01およびSI04で出土した弥生土器は，本住居跡に伴う遺物である可能性を提起したい。その出土量から察すると，周辺に弥生時代終末期の遺構のまとまりをも示唆させる。

SI04（第17図）

位置・重複関係等　調査区A区B5・B6・C6ブロックに位置する。確認面はソフトローム層上面である。南側でSI03の硬化面を切っている。中央部の大半が現代の井戸跡によって攪乱さてれいる。

形態　長軸4.92m，南東壁の長さ1.97m，確認面からの深さは0.34mを測り，平面形は隅丸方形を呈すると思われる。柱穴と思われるピットを１基検出した（Ｐ１）。大半が現代の井戸跡で攪乱されているが，硬化面を確認した。

覆土　覆土にローム粒等が混じることから人為的堆積である。

遺物　１はヘラ削り後の磨き調整，２は外面が斜め下方へのヘラ削り，内面がヘラ撫でを中心とする２調整に分類される。３～５は本住居跡の年代ではない，弥生土器である。周辺の事例を考える上で重要な資料となりかねないので，ここに抽出した。３は横走の櫛描文および羽状縄文による施文，４はキザミおよび縦走の櫛描文，５はキザミと横走の櫛描文がそれぞれ施される。５の櫛描文は山形に曲線を描く。

時期　１および２の出土から古墳時代後期（６世紀後半）と判断される。

所見等　構造的に判然としないが，SI03 のわずかな壁と思しき痕跡の確認から，SI03 との重複関係が指摘される。住居内の攪乱の位置から察すると，主柱穴が削平されて状況であろう。

SI05（第19図）

位置・重複関係等　調査区A区C5・C6・D5・D6ブロックに位置する。確認面はソフトローム層上面である。西側をSI01に切られている。

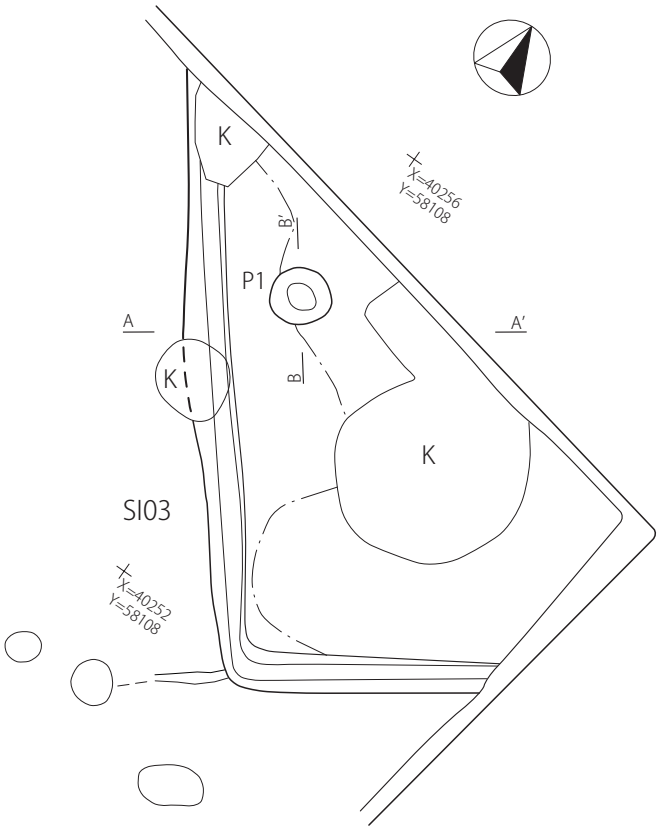
形態　隅丸方形を呈す。南北方向に3.75m，東西方向に3.19m残存，確認面からの深さは0.16mを測る。

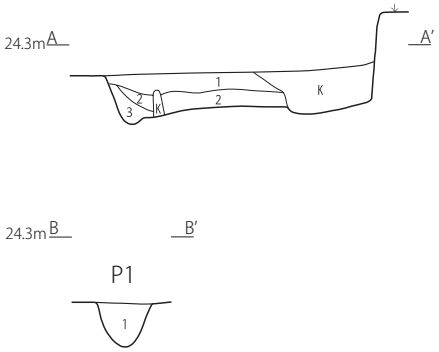
覆土　攪乱が多いが，土層断面により人為的に一度に埋められた可能性がある。

遺物　主要なものでは土玉（１），土師器（２～３）で構成される。

時期　２～３の出土および他の破片資料から，古墳時代後期であろうかと考えられる。

所見等　全体的な遺物出土量が非常に少なく，住居の規模も極小である点から，一時的な居住形態が考えられる。その点では，重複関係から本住居跡に後続するSI01の構築は注目される。





SI04

1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒少量、焼土粒微量含む
　　粘性：有り　締まり：有り

2　10YR3/1 黒褐色土　ロームブロック・ローム粒中量、焼土粒微量含む
　　粘性：有り　締まり：有り

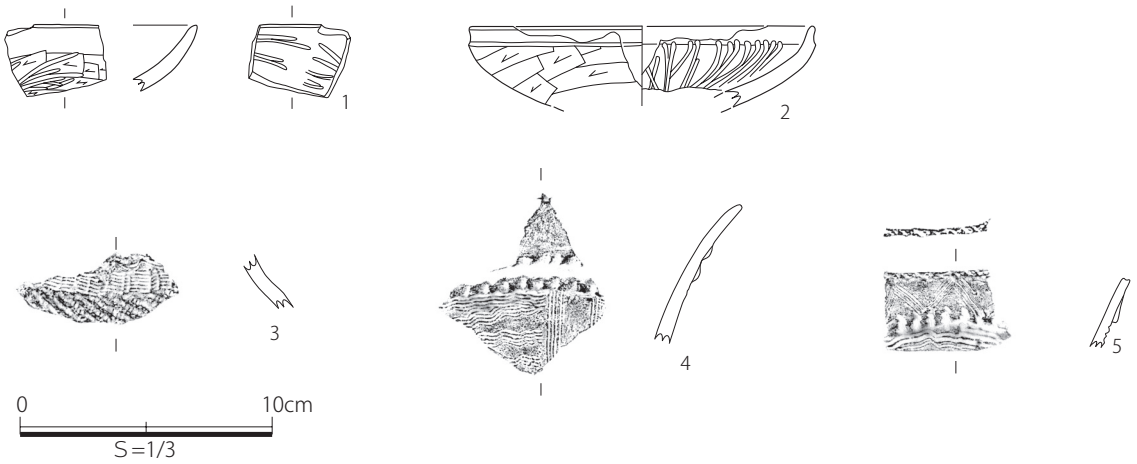
3　10YR4/4 褐色土　ローム粒多量、ロームブロック少量含む
　　粘性：有り　締まり：有り

P1

1　10YR4/4 褐色土　ロームブロック・ローム粒・黒色土中量、鹿沼パミス微量含む
　　粘性：有り　締まり：有り

0　2m
S=1/60

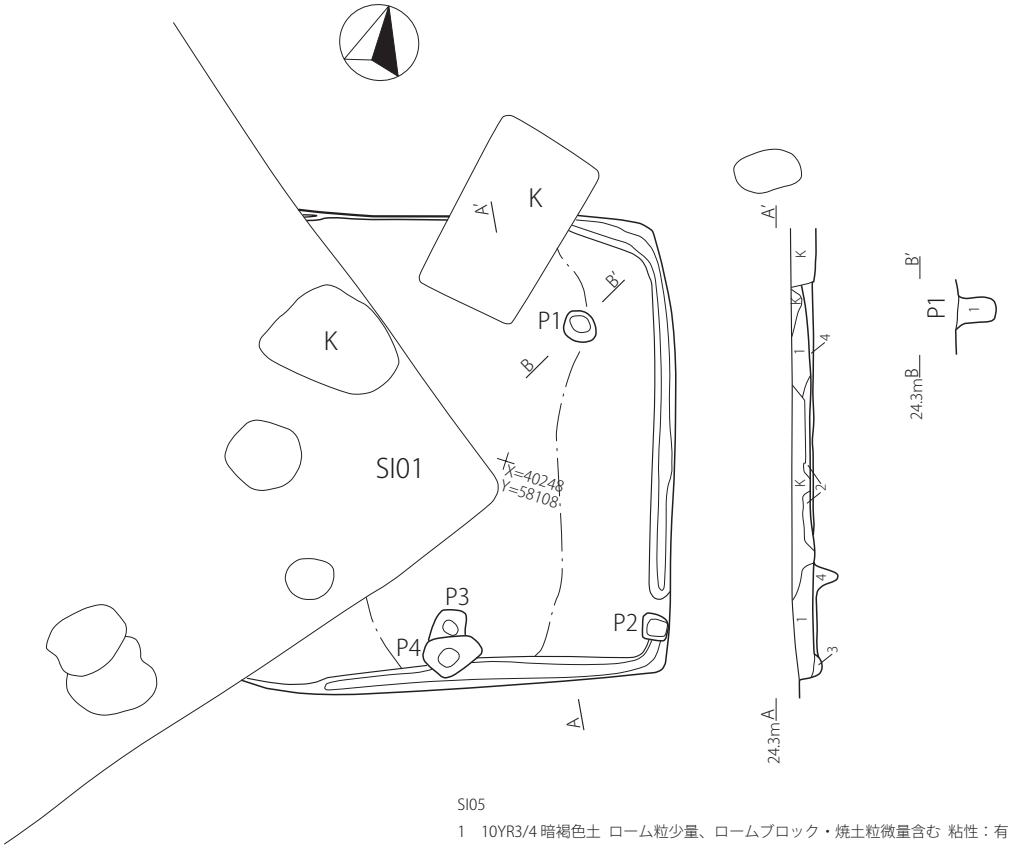
第 17 図　SI04 平面図及び断面図



第 18 図　SI04 出土遺物

第４表　SI04 遺物観察表

No	出土地点			出土遺物			口径	最大径	底径	器高	残存率	重量(g)	特徴・手法	時代	胎土鉱物	海綿骨針	焼成	色調	備考
	遺構	ブロック	層位	種別	器種	部位													
1	SI04	B5	-	土師器	坏	口～体	-	-	-	(2.9)	20	15	外面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 ヨコナデ後ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR5/3にぶい黄褐色	
2	SI04	B5	-	土師器	坏	体部	<15.0>	-	-	(3.5)	25	58	外面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内面 ヨコナデ後ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR5/3にぶい黄褐色	
3	SI04	B6	-	弥生土器	壷	頸部	-	-	-	(2.1)	5	11	櫛描文、羽状縄文	弥生	緻密 石英 長石	-	普通	10YR3/3暗褐色	
4	SI04	B6	-	弥生土器	壷	頸部	-	-	-	(5.5)	5	22	キザミ、横走波状文、櫛描文	弥生	緻密 石英 長石	-	普通	10YR5/4にぶい黄褐色	
5	SI04	B6	-	弥生土器	壷	口縁部	-	-	-	(4.8)	5	11	キザミ、櫛描文	弥生	緻密 石英 長石	-	普通	10YR3/2黒褐色	



SI05

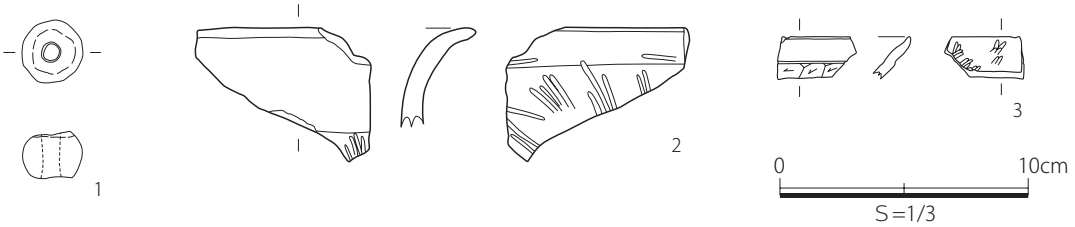
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック・焼土粒微量含む 粘性：有り　締まり：強い
2　10YR5/6 黄褐色土　ロームブロック・ローム粒多量含む 粘性：有り　締まり：有り
3　10YR4/4 褐色土　ロームブロック・ローム粒中量、炭化物粒少量含む 粘性：有り　締まり：有り
4　10YR5/8 黄褐色土　ローム粒多量、ロームブロック中量含む 粘性：有り　締まり：有り

P1

1　10YR4/4 褐色土　ロームブロック・ローム粒中量、炭化物粒・鹿沼パミス微量含む　粘性：有り　締まり：有り

0　2m
S=1/60
X=40244
Y=58108

第 19 図　SI05 平面図及び断面図



第 20 図　SI05 出土遺物

第 5 表　SI05 遺物観察表

No	出土地点			出土遺物			口径	最大径	底径	器高	残存率	重量(g)	特徴・手法	時代	胎土鉱物	海綿骨針	焼成	色調	備考
	遺構	ブロック	層位	種別	器種	部位													
1	SI05	C6	-	土製品	土玉	-	2.1	-	2.7	0.7	100	18		不明	緻密 石英 長石	-	普通	10YR5/3にぶい黄褐色	
2	SI05	D6	-	土師器	甕	口縁部	-	-	-	(5.4)	5	32	外面:口縁部ヨコナデ 胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面:口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ 胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR6/4にぶい黄褐色	
3	SI05	C6	-	土師器	坏	口縁部	-	-	-	(1.9)	5	4	外面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内面 ヨコナデ後ヘラミガキ	古墳	緻密 石英 長石	-	良好	10YR6/4にぶい黄褐色	

SK01（第 21 図）

位置・重複関係等　B 区 J4 ブロックに位置する。重複する遺構はない。

形態　不定形。長軸方向で 1.08m，短軸方向 0.92m，深さ 0.10m を測る。

覆土　ローム粒が混入することから人為堆積。

時期　周辺遺構と類似な覆土であることから中世以降とした。

所見等　覆土中から不明な土器が 1 点出土している。覆土は周辺遺構と非常に似ている。よって所属時期を中世以降とした。

SK02（第 22 図）

位置・重複関係等　A 区 C3 ブロックに位置する。他の遺構との重複は無し。

形態　隅丸長方形。長軸 1.14m，短軸 0.78m，深さ 0.22m を計る。

覆土　２層目を人為的に埋土後，１層目が自然堆積したと思われる。

時期　出土土器から奈良・平安時代と思われる。

所見等　奈良・平安時代に所属すると思われる土器片が覆土中より 1 点出土している。所属時期を明確にするにはやや証拠に欠けるが，奈良・平安時代の可能性が高い。

SK03（第 22 図）

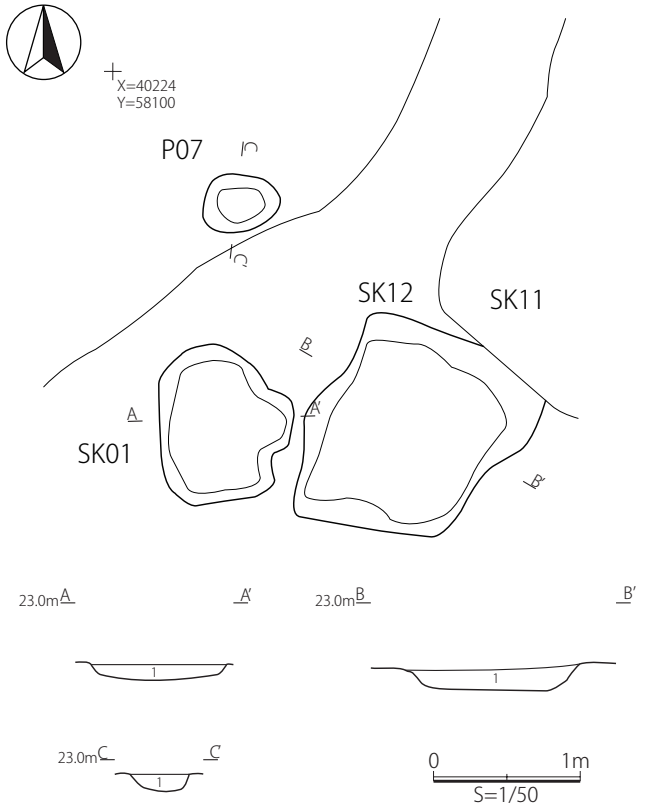
位置・重複関係等　A 区 C3 ブロックに位置する。他の遺構との重複は無し。

形態　やや楕円形な隅丸長方形。長軸 1.08m，短軸 0.74m，深さ 0.09m を計る。

覆土　人為堆積と思われる。

時期　SK02 と埋土が類似していることから奈良・平安時代か

所見等　不明な土器片が 1 点出土している。SK02 と形態，土層が類似していることから SK02 と同時代の可能性がある。



SK01　A ― A'

1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・白色粘土粒少量含む
粘性：やや有り　締まり：やや有り

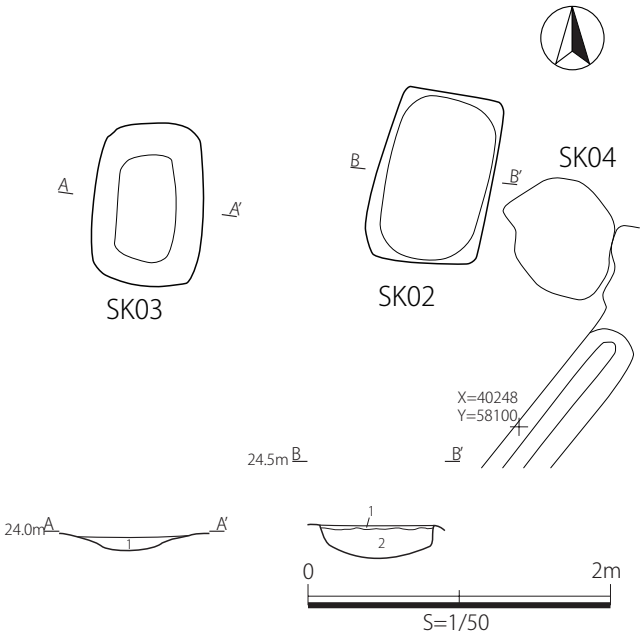
SK12　B ― B'

1　10YR4/4 褐色土　ローム粒・青白色粘土粒・炭化物粒少量含む
粘性：有り　しまり：やや無し

P07　C ― C'

1　10YR4/4 褐色土　ローム粒・炭化物粒少量含む
粘性：有り　しまり：やや無し

第 21 図　SK01・12・SP7 平面図及び断面図



SK02　A ― A'

1 10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック少量含む。
粘性：有り　締まり：強い

2 10YR5/8 黄褐色土　ローム粒多量含む。
粘性：有り　締まり：強い

SK03　B ― B'

1 10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック少量含む。
粘性：有り　締まり：強い

第 22 図　SK02・SK03 平面図及び断面図

SK04（第 23 図）

位置・重複関係等　A 区 C3・C4 ブロックに位置する。南東部の一部を SI01 のカマドに切られている。

形態　やや不定な円形。長軸方向で 0.80m，東西方向 0.70m，深さ 0.20m を測る。

覆土　堆積状況がレンズ状を呈することから自然堆積と考えられる。

時期　出土土器から弥生時代後期と思われる。

所見等　弥生時代後期の土器片が 6 点，古墳時代後期の土師器片が 2 点出土している。
古墳時代後期の SI01 のカマドに切られていることから，出土土器のうち弥生土器を重視して，弥生時代に帰属するものと判断した。SK04 周辺に硬化面等は確認できなかったが，SI01 や SK04 の周辺からも弥生土器が出土していることから，本跡は弥生時代の住居跡に伴う炉跡の可能性がある。

SK05（第 24 図）

位置・重複関係等　A 区 A2 ブロックに位置する。他の遺構との重複は無し。

形態　不定形。南北方向残存部分で 0.86m，東西方向 0.80m，深さ 0.38m を計る。

覆土　東部分が攪乱で大きく破壊されているが，１・２層とも水平堆積を呈す。

時期　不明である。

所見等　北部の大半が現代の攪乱を受けており，おそらく南西部分しか残存していないものと思われる。また，遺物の出土がない為，所属時期は不明である。

SK07（第 25 図）

位置・重複関係等　B 区 H5・I5 ブロックに位置する。他の遺構との重複は無し。東部分調査区外へと伸びている。

形態　不定形。南北軸方向で 0.52m，東西軸方向 0.86m，深さ 0.22m を測る。

覆土　ロームブロックが混じることなどから人為堆積。

時期　不明である。

所見等　東部分が調査区外へと伸びているが，底部が確認できたので大幅に調査区外へは展開しないと考える。遺物は出土していないので不明である。

SK08（第 25 図）

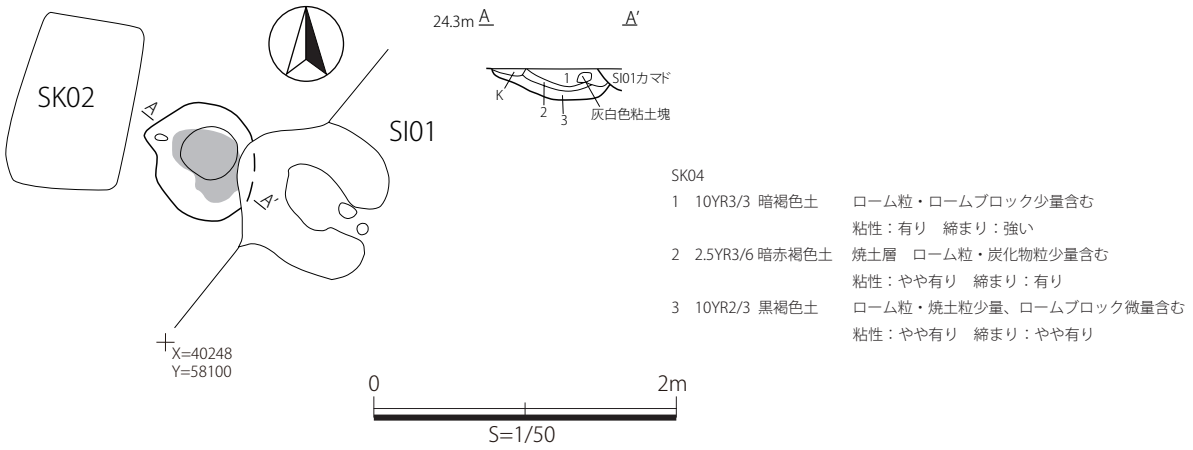
位置・重複関係等　B 区 H5 ブロックに位置する。他の遺構との重複は無し。

形態　やや不定の円形。南北軸で 0.72m，東西軸方向 0.68m，深さ 0.22m を測る。

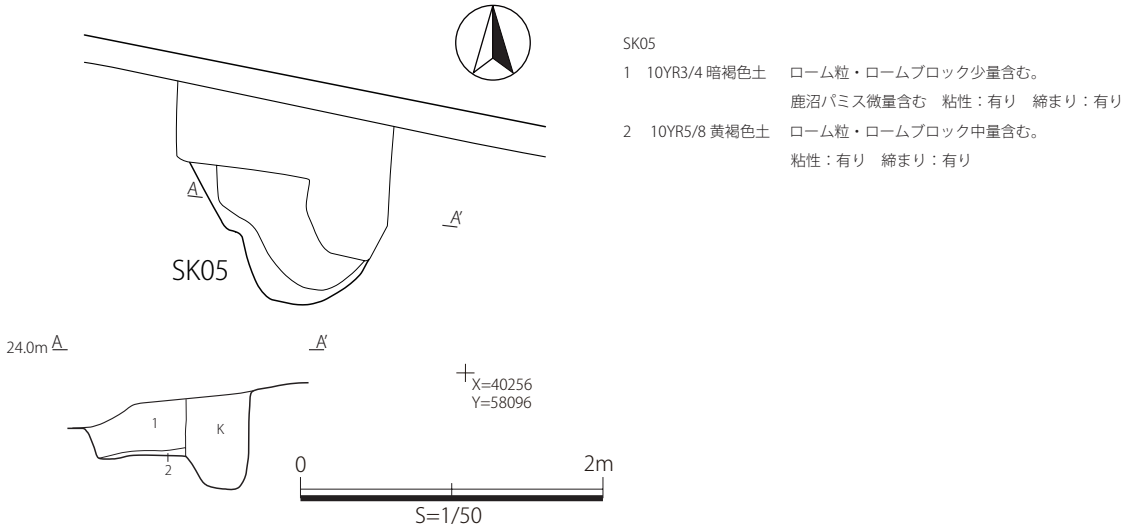
覆土　ロームブロック等が混じることから人為堆積。

時期　出土土器から中世以降と考えられる。

所見等　時期不明な土師質土器と瓦質土器が出土しているので中世以降に所属する可能性が高い。



第 23 図　SK04 平面図及び断面図



第 24 図　SK05 平面図及び断面図

SK09（第 25 図）

位置・重複関係等　B 区 H5・I5 ブロックに位置する。他の遺構との重複は無し。

形態　方形を呈する。南北軸 0.74m，東西軸 0.80m，深さ 0.26m を測る。

覆土　ロームブロック等が混じることから人為堆積。

時期　不明である。

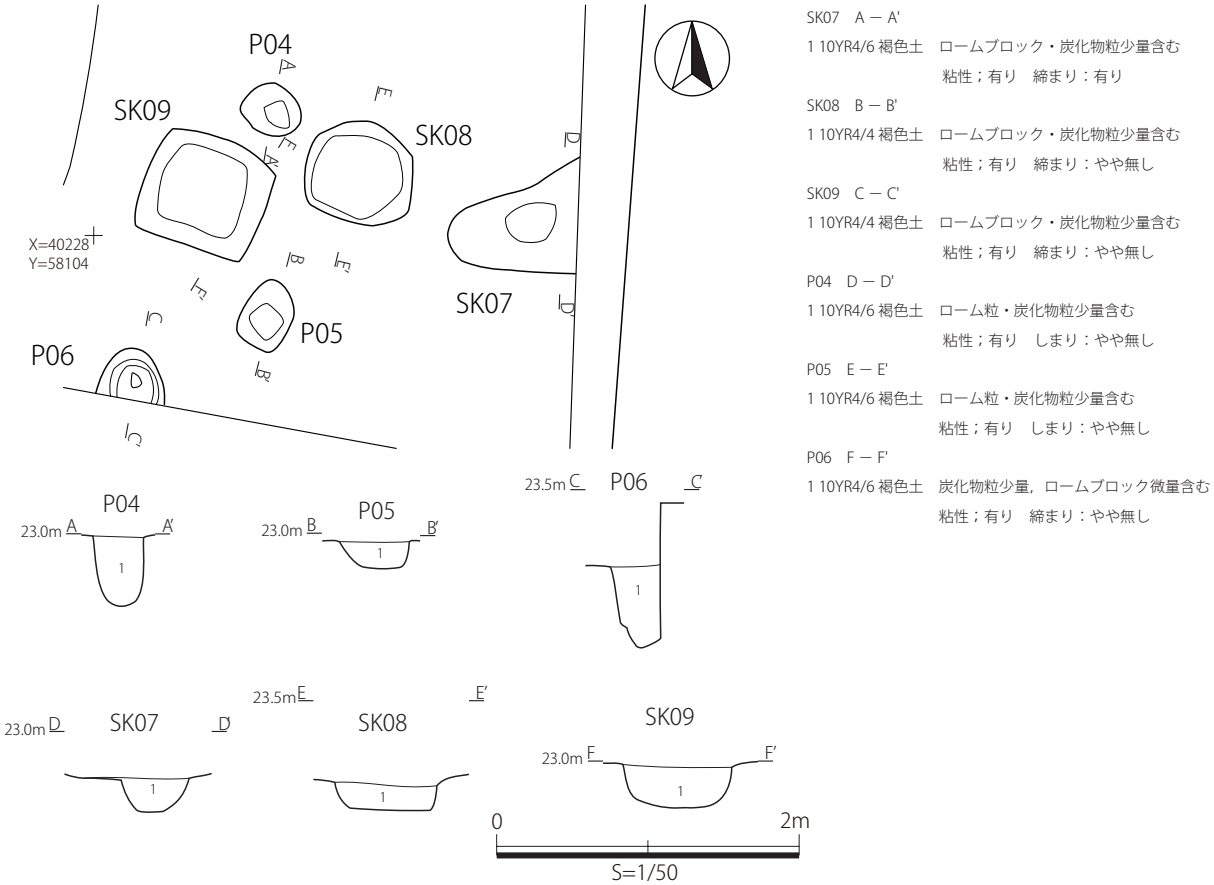
所見等　遺物は出土していない。

SK10（第 26 図）

位置・重複関係等　B 区 I4・I5 ブロックに位置する。南側で SK11 に切られている。北半は現代の配管埋設の下へ伸びている。

形態　楕円形と思われる。南北軸方向で残存 1.20m，東西軸方向 2.80m，深さ 0.44m を測る。

覆土　5・6 層がは流れ込みであり，3・4 層が水平堆積なので考えられることから人為堆積である。



第 25 図　SK07 ～ SK09・P04 ～ P06 平面図及び断面図

時期　不明である。

所見等　遺構掘削時，底より湧水を確認している。

SK11（第 27 図）

位置･重複関係等　B 区 I4･I5･J4･J5 ブロックに位置する。北側で SK10 を切り，南側で SK12 を切っている。

形態　不定な楕円形。長軸方向で残存 2.98m，短軸方向 1.77m，深さ 0.36m を測る。

覆土　4 層は流れ込みで，１・2・３層が水平堆積と考えられることから人為堆積と思われる。

時期　不明である。

所見等　SK10 同様，遺構掘削時，底面より湧水を確認している。埋土は周辺遺構と類似する。

SK12（第 21 図）

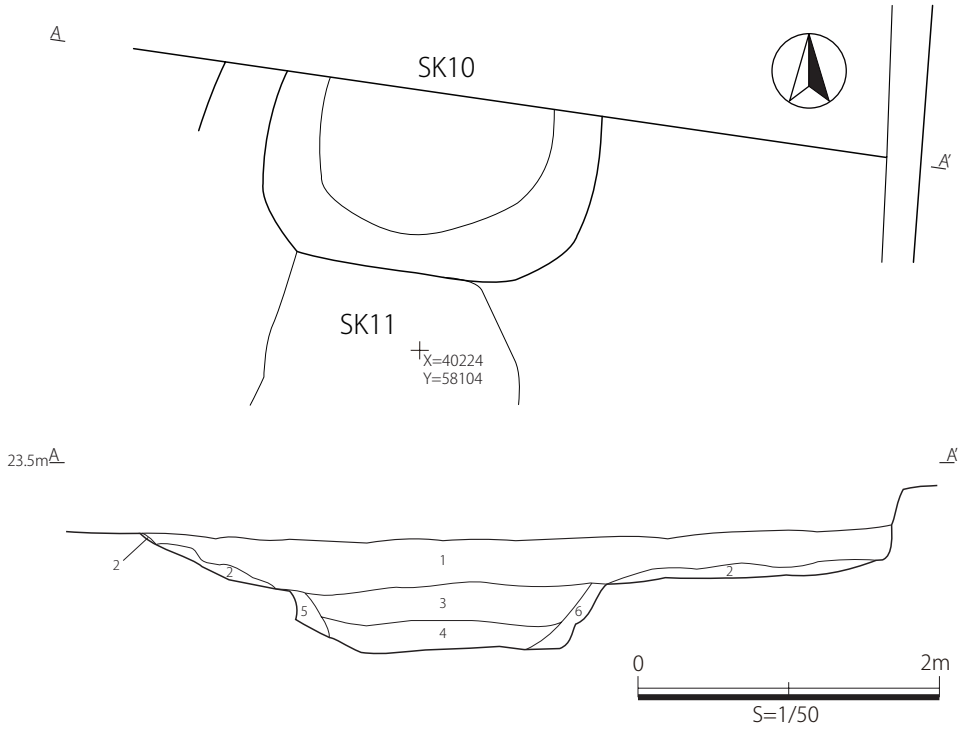
位置・重複関係等　B 区 J4 ブロックに位置する。北側で SK11 に切られている。

形態　不定な方形で長軸方向で 1.6m，短軸方向 1.50m，深さ 0.16m を測る。

覆土　ローム粒が混入することから人為堆積であると考える。

時期　中世以降の土師質土器（カワラケ）が底面より出土していることから中世以降であると考える。

所見等　底面より中世の土師質土器（カワラケ）が出土している。覆土中よりさらに 1 点中世の土師質土器（カワラケ）が出土している。これらのことから所属時期を中世以降とした。



SK10

1　10YR4/6 褐色土　現代の耕作土　ローム粒少量・炭化物粒極少含む　粘性：有り　しまり：やや無し

2　10YR4/4 褐色土　現代の耕作土　ロームブロック多量に含む　粘性：有り　しまり：やや無し

3　10YR4/6 褐色土　ロームブロック多量・青白色粘土粒少量含む　粘性：有り　しまり：やや無し

4　10YR4/6 褐色土　ロームブロック多量・炭化物粒少量含む　粘性；有り　しまり：有り

5　10YR4/4 褐色土　ローム粒・青白色粘土粒少量，炭化物粒・粘土粒極少含む　粘性：有り　しまり：やや無し

6　10YR4/4 褐色土　ローム粒多量・青白色粘土粒少量含む　鉄分沈着有り　粘性：有り　しまり：有り

第 26 図　SK10 平面図及び断面図

P01（第 28 図）

位置・重複関係等　A 区 C6 ブロックに位置する。

形態　楕円形で長軸方向で 0.40m，短軸方向 0.36m，深さ 0.40m を測る。

覆土　覆土中にローム粒が認められることから人為堆積と考えられる。

時期　不明である。

所見等　SI04 と SI05 に挟まれており，何らかの関係性が考えられるが，遺物は出土せず，覆土も他の遺構とは異なる為，所属時期を判断できる根拠に乏しいため，所属時期は不明である。

P02（第 29 図）

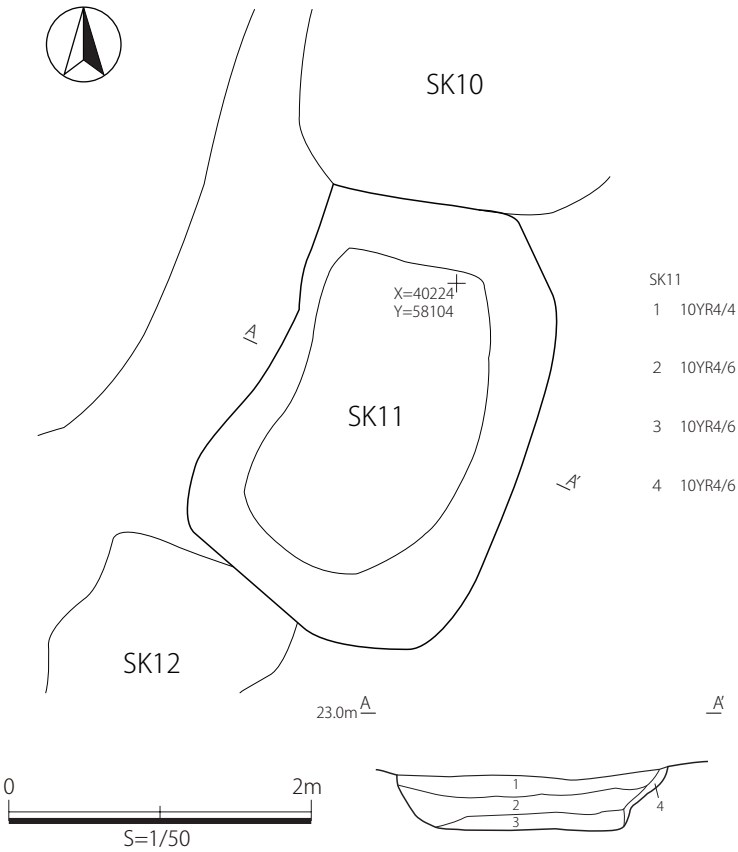
位置・重複関係等　A 区 C4 ブロックに位置し，SI01 を切っている。

形態　円形である。南北方向で 0.23m，東西方向で 0.20m，深さ 0.25m を測る。

覆土　1 層が水平堆積であるため，人為堆積と思われる。

時期　古墳時代以降と思われる。

所見等　出土遺物はないが，SI01 の床面を切っているため古墳時代以降とする。



SK11

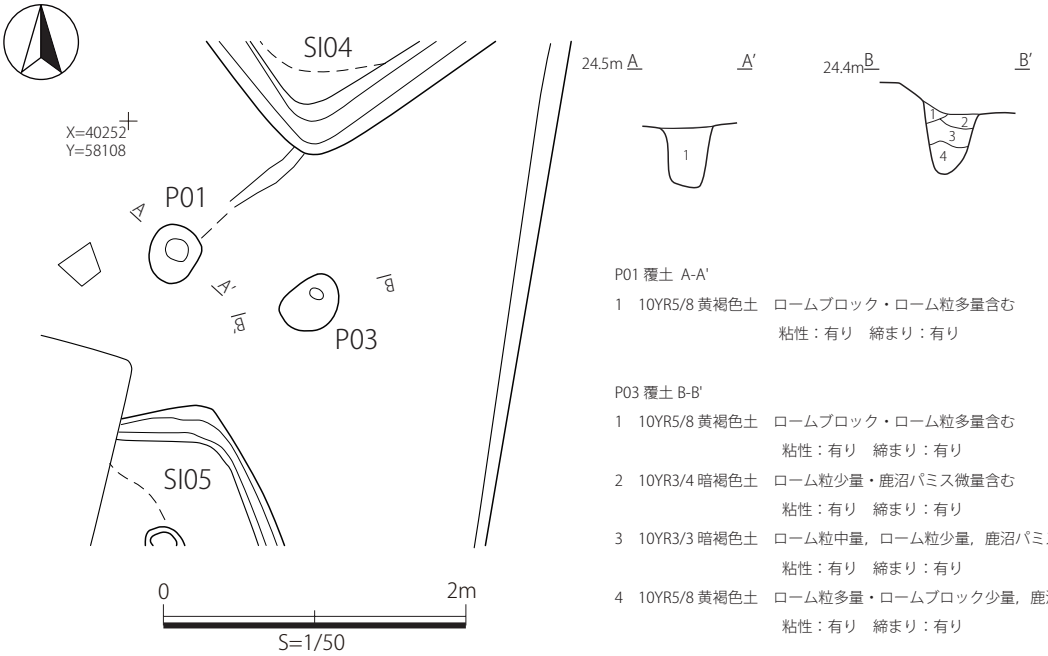
1　10YR4/4 褐色土　ロームブロック・青白色粘土粒・炭化物粒少量含む
粘性：有り　しまり：やや無し

2　10YR4/6 褐色土　ロームブロック多量・炭化物粒少量含む
粘性；有り　しまり：有り

3　10YR4/6 褐色土　ローム粒・青白色粘土粒少量，炭化物粒極少含む
粘性：有り　しまり：やや無し

4　10YR4/6 褐色土　ローム粒多量，青白色粘土粒少量含む
粘性：有り　しまり：有り

第 27 図　SK11 平面図及び断面図



P01 覆土 A-A'

1　10YR5/8 黄褐色土　ロームブロック・ローム粒多量含む
粘性：有り　締まり：有り

P03 覆土 B-B'

1　10YR5/8 黄褐色土　ロームブロック・ローム粒多量含む
粘性：有り　締まり：有り

2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒少量・鹿沼パミス微量含む
粘性：有り　締まり：有り

3　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒中量，ローム粒少量，鹿沼パミス微量含む
粘性：有り　締まり：有り

4　10YR5/8 黄褐色土　ローム粒多量・ロームブロック少量，鹿沼パミス微量含む
粘性：有り　締まり：有り

第 28 図　P01・03 平面図及び断面図

P03（第 28 図）

位置・重複関係等　A 区 C6 ブロックに位置する。重複する遺構はない。

形態　楕円形で長軸方向で 0.52m，短軸方向 0.32m，深さ 0.42m を測る。

覆土　覆土中にローム粒が認められることから人為堆積と考えられる。

時期　時期不明である。

所見等　SI04 と SI05 に挟まれ，西は SI03 の硬化面が存在し，何らかの関係性が考えられるが，遺物は出土せず，所属時期を判断できる根拠に乏しいので不明とする。

P04（第 25 図）

位置・重複関係等　B 区 H5 ブロックに位置する。他の遺構との重複は無し。

形態　やや不定な円形。南北軸 0.34m，東西軸 0.40m，深さ 0.46m を測る。

覆土　ローム粒等が混じることから人為堆積と思われる。

時期　中世以降の土師質土器，瓦質土器が出土していることから中世以降と思われる。

所見等　覆土中から中世以降の土師質土器（火鉢），瓦質土器（火鉢），時期不明な平瓦片が出土しているので所属時期を中世以降とした。

P05（第 25 図）

位置・重複関係等　B 区 I5 ブロックに位置する。他の遺構との重複は無し。

形態　やや不定な円形。南北軸 0.34m，東西軸 0.40m，深さ 0.46m を測る。

覆土　ローム粒等が混じることから人為堆積と思われる。

時期　埋土が周辺遺構と類似していることから，中世以降と考えられる。

所見等　遺物は出土していないが，埋土が周辺遺構と類似しているため所属時期は同様と考えられる。

P06（第 25 図）

位置・重複関係等　B 区 I5 ブロックに位置する。他の遺構との重複は無し。南部一部分が現代の配管埋設へと伸びている。

形態　やや不定な円形。残存南北軸 0.34m，東西軸 0.44m，深さ 0.53m を測る。

覆土　ロームブロック等が混じることから人為堆積と思われる。

時期　埋土が周辺遺構と類似していることから，中世以降と考えられる。

所見等　遺物は出土していないが，埋土が周辺遺構と類似しているため所属時期は同様と考えられる。

P07（第 21 図）

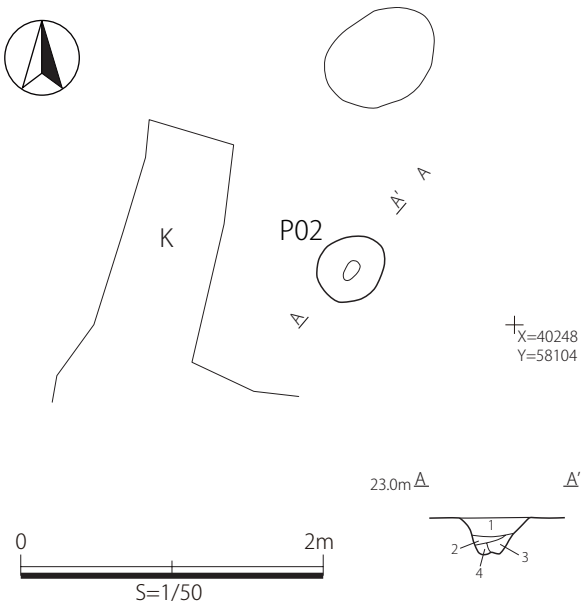
位置・重複関係等　B 区 J4 ブロックに位置する。重複する遺構はない。

形態　やや歪な円形。長軸方向で 0.52m，短軸方向 0.40m，深さ 0.12m を測る。

覆土　ローム粒が混入することから人為堆積とした。

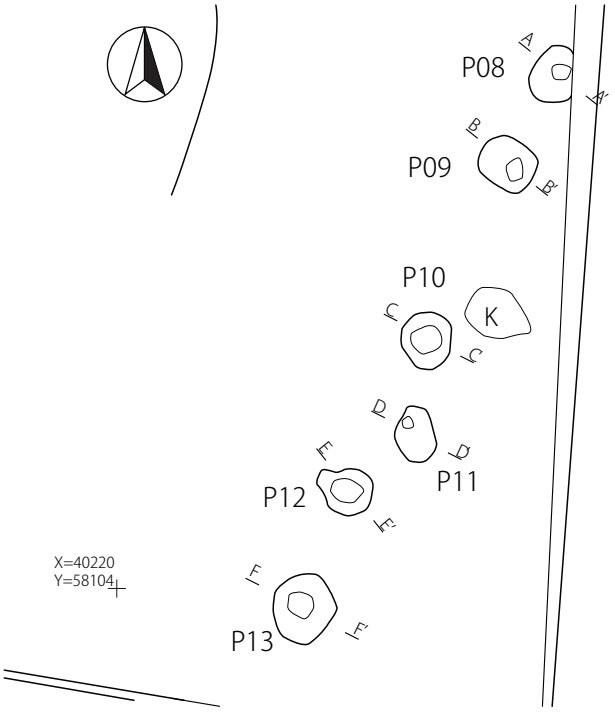
時期　周辺遺構と類似な覆土であることから中世以降とした。

所見等　覆土は周辺遺構と非常に類似していることから，所属時期を中世以降とした。

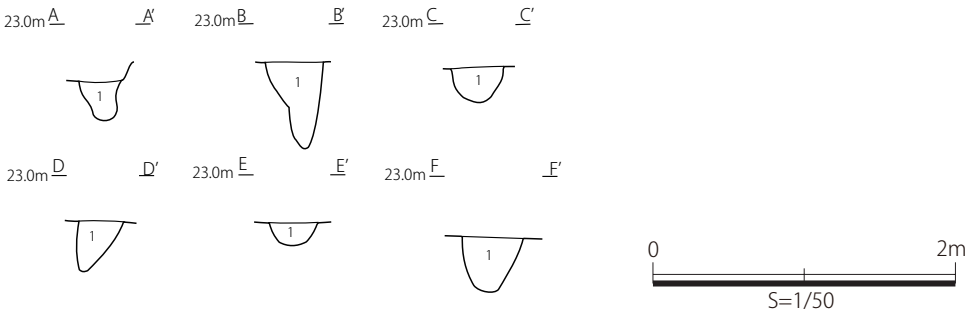


P02
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒微量含む
粘性：有　締まり：やや無し
2　10YR3/4 暗褐色土　ロームブロック中量含む
粘性：有り　締まり：有り
3　10YR3/2 黒褐色土　ローム粒微量含む
粘性：有り　締まり：有り
4　10YR5/8 黄褐色土　ローム粒多量、ロームブロック中量含む
粘性：有り　締まり：有り

第 29 図　P02 平面図及び断面図



P08　A － A'
1　10YR4/4 褐色土　青白色粘土ブロック・ローム粒少量含む
粘性：有り　しまり：有り
P09　B － B'
1　10YR4/6 褐色土　ローム粒・炭化物粒少量含む
粘性：有り　しまり：有り
P10　C － C'
1　10YR4/6 褐色土　ロームブロック少量含む
粘性：有り　しまり：有り
P11　D － D'
1　10YR4/6 褐色土　青白色粘土ブロック多量，ローム粒少量含む
粘性：有り　しまり：強い
P12　E － E'
1　10YR4/4 褐色土　青白色粘土ブロック・ローム粒少量含む
粘性：有り　しまり：有り
P13　F － F'
1　10YR4/6 褐色土　青白色粘土粒・ローム粒少量含む
粘性：有り　しまり：有り



第 30 図　P08 ～ P13 平面図及び断面図

P08（第 30 図）

位置・重複関係等　B 区 J5 ブロックに位置する。東側の一部が調査区外へ伸びている。

形態　円形で南北方向で 0.4m，東西方向 0.32m，深さ 0.24m を測る。

覆土　ローム粒が混入することから人為堆積と思われる。

時期　中世以降の土師質土器片が出土していることから中世以降と思われる。

所見等　中世以降の土師質土器片と不明土器が出土している。周辺のピットの中では唯一遺物の出土したピットである。P08 ～ P13 の覆土も本遺構の覆土に類似することから関連が認められるが，深さにばらつきが認められることから，柵列のような同時期に作成，廃絶されたものではないと考える。

P09（第 30 図）

位置・重複関係等　B 区 J5 ブロックに位置する。重複する遺構はない。

形態　やや円形にちかい隅丸方形で南北方向で 0.32m，短軸方向 0.38m，深さ 0.57m を測る。

覆土　ローム粒が混入することから人為堆積と思われる。

時期　周辺遺構と類似な覆土であることから中世以降とした。

所見等　周辺のピットの中では一番深さがある。周辺ピットと覆土は類似する。

P10（第 30 図）

位置・重複関係等　B 区 J5 ブロックに位置する。重複する遺構はない。

形態　円形で南北方向で 0.38m，東西方向 0.34m，深さ 0.22m を測る。

覆土　ロームブロックが混入することから人為堆積とした。

時期　周辺遺構と類似な覆土であることから中世以降とした。

所見等　覆土は周辺ピットと非常に類似している。よって所属時期を中世以降とした。

P11（第 30 図）

位置・重複関係等　B 区 J5 ブロックに位置する。重複する遺構はない。

形態　不定形で南北方向で 0.38m，東西方向 0.32m，深さ 0.33m を測る。

覆土　ローム粒が混入することから人為堆積とした。

時期　周辺遺構と類似な覆土であることから中世以降とした。

所見等　覆土は周辺ピットと類似している。よって所属時期を中世以降とした。青白色粘土ブロックが混じることから SK12 などとも関連する可能性が高い。

P12（第 30 図）

位置・重複関係等　B 区 J5 ブロックに位置する。重複する遺構はない。

形態　不定形で南北方向で 0.32m，東西方向 0.38m，深さ 0.14m を測る。

覆土　ローム粒が混入することから人為堆積とした。

時期　周辺遺構と類似な覆土であることから中世以降とした。

所見等　覆土は周辺ピットと非常に類似している。よって所属時期を中世以降とした。青白色粘土

ブロックが混じることからSK12などとも関連も考えられる。

P13（第30図）

位置・重複関係等　B区J5・K5ブロックに位置する。重複する遺構はない。

形態　円形。南北方向で0.46m，東西方向0.42m，深さ0.36mを測る。

覆土　ローム粒が混入することから人為堆積とした。

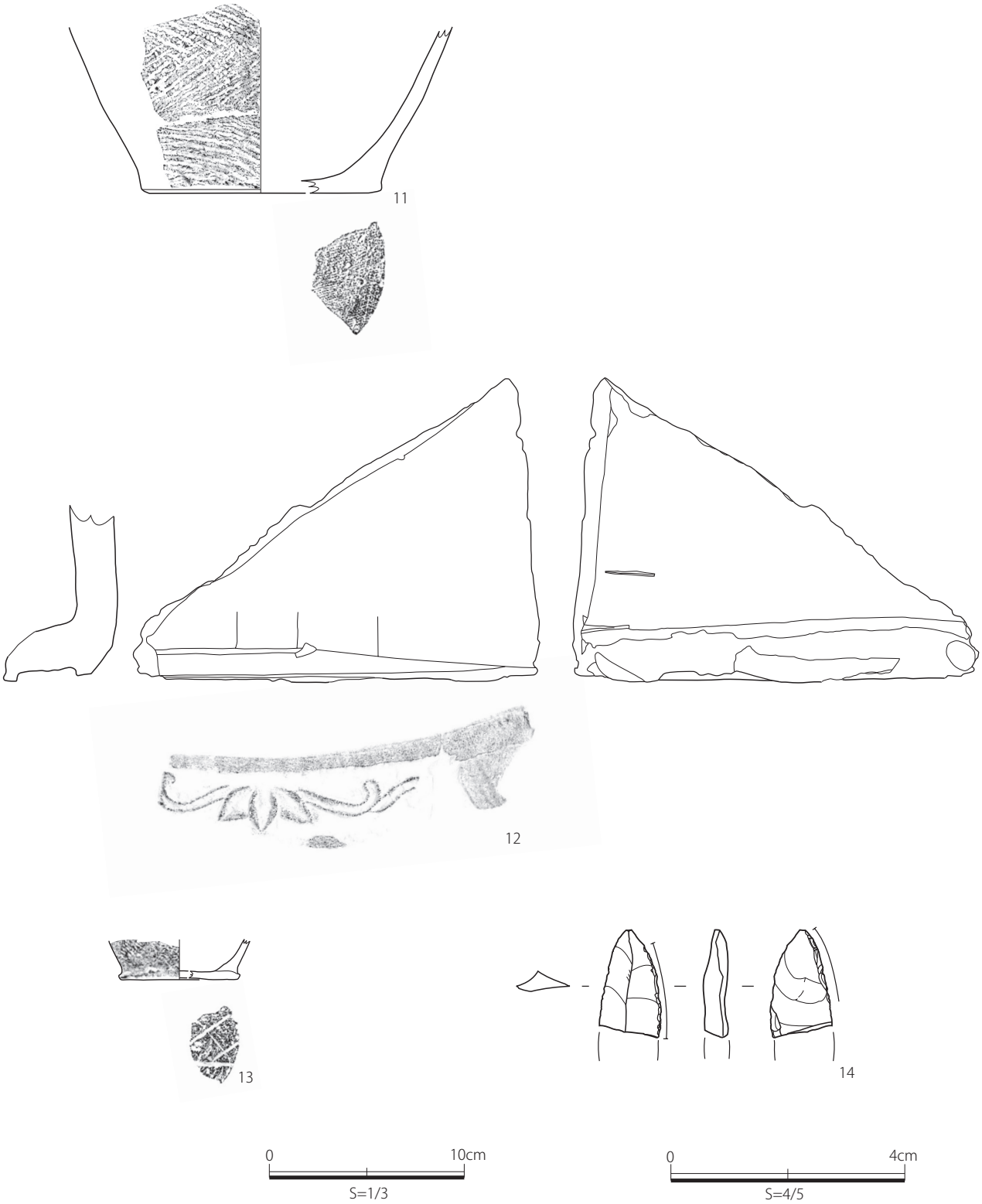
時期　周辺遺構と類似な覆土であることから中世以降とした。

所見等　覆土は周辺ピットと非常に似ている。よって所属時期を中世以降とした。青白色粘土粒が混じることからSK12などとも関連も考えられる。

第2節　遺構外出土遺物（第30図）

表土や攪乱からは，多数の遺物が出土している。調査区A区とB区とを考えるならば，A区では主に弥生時代，B区では中世以降と思われる遺物が多い傾向にある。第30図5・8・10と第31図11・13は弥生土器である。いずれも弥生時代後期に所属すると思われる。第30図1・4・6・7・9は土師質土器(カワラケ)である。形態から中世以降に属する。第30図2・3は瓦質土器と思われる。いずれも中世以降に所属すると思われる。特に3は，口縁部下に菊花文が施されており，17世紀代に所属する火鉢と思われる。第31図12は軒平瓦である。形態から中世以降と思われる。第31図13は二側縁加工のナイフ形石器の先端部である。基部は欠損している。背面の右側縁には腹面から調整が加えられ，腹面の右側縁にも背面から調整が加えられている。また，調整箇所には使用痕が認められた。主要剥離面は先基部から先端の方向に剥離されており，背面構成も，基部から先端方向に剥離されている。石核から連続して縦長剥片を剥離し作成されたものと推測される。石材には透明な白色の玉髄（メノウ）を使用しており，久慈川産の可能性が高い。年代は橋本編年IIb期と考えられる（1995橋本)。　（伊藤）

第 31 図　遺構外出土遺物（1）



第 32 図　遺構外出土遺物（2）

第６表　遺構外遺物観察表

No	出土地点			出土遺物			口径	最大径	底径	器高	残存率	重量(g)	特徴・手法	時代	胎土鉱物	海綿骨針	焼成	色調	備考
	遺構	ブロック	層位	種別	器種	部位													
1	B区	H5	表土	土師質土器	カワラケ	口～底	<10.4>	-	5.4	(3.4)	80	102	ロクロ成形 底部回転糸切り	中・近世	緻密 石英 長石	-	良好	10YR6/4明黄褐色	
2	B区	H5	表土	瓦質土器	不明	口～胴	<23.2>	-	-	(12.9)	10	150	外面：ヘラナデ後ヨコナデ 内面：ヘラナデ後ヨコナデ	中・近世	緻密 石英 長石	-	良好	5Y5/1灰色	
3	B区	H5	表土	瓦質土器	火鉢	口縁部	-	-	-	(6.6)	5	225	外面 ミガキ　突帯＋菊花文 内面 ナデ	近世	緻密 石英 長石	-	良好	10YR5/3にぶい黄褐色	
4	B区	H5	表土	土師質土器	カワラケ（小皿）	口～底	<6.8>	-	<4.4>	(1.3)	40	19	ロクロ成形 底部回転糸切り	近世	緻密 石英 金雲母	-	良好	7.5YR5/4にぶい褐色	
5	-	B4	表土	弥生土器	壷	胴部	-	-	-	(9.4)	10	160	羽状縄文	弥生	緻密 石英 長石	-	良好	10YR6/4にぶい黄橙色	
6	B区	H5	表土	土師質土器	カワラケ	口～底	<10.8>	-	4.6	2.9	65	55	ロクロ成形 底部回転糸切り後ナデ	中・近世	緻密 金雲母	○	良好	7.5YR5/6明褐色	
7	B区	J4	表土	土師質土器	カワラケ	体～底	-	-	4.6	(2.3)	40	24	見込み周縁部に沈線 底部回転糸切り後ナデ	中・近世	緻密 石英 長石	-	良好	10YR6/4にぶい黄褐色	見込み周縁部に沈線
8	カクラン	B4	-	弥生土器	壺	頸～胴	-	-	-	(8.3)	10	101	押圧隆起線3本 羽状構成 附加条二種	弥生	緻密 石英 長石	-	普通	10YR6/4にぶい黄褐色	
9	-	D2	表土	土師質土器	カワラケ	口～底	<9.4>	-	5.9	(1.9)	30	69	ロクロ整形 底部回転糸切り	近世	緻密 石英 長石	-	良好	10YR6/4にぶい黄褐色	被熱
10	-	E1,E2	表土	弥生土器	壺	胴部	-	-	-	(5.6)	5	35	附加条　羽状構成	弥生	緻密 石英 長石	-	普通	10YR5/3にぶい黄褐色	
11	-	A4,B4	表土	弥生土器	壺	胴～底	-	-	<11.4>	(8.5)	5	103	附加条　羽状構成	弥生	緻密 石英 長石	-	普通	10YR5/4にぶい黄褐色	見込み周縁部に沈線
12	B区	J4	表土	瓦	軒平瓦	-	15.6	4.6	20.8	2.2	55	783	下向き三葉文唐草文	中・近世	緻密 石英 長石	○	良好	10YR5/1褐灰色	瓦当部上面面取り
13	B区	-	表土	弥生土器	壺	底部	-	-	<6.6>	(2.3)	5	19	底部木葉痕	弥生	緻密 石英 長石	-	普通	10YR5/3にぶい黄褐色	
14	-	-	表土	旧石器	ナイフ形石器	先端	長さ (2.3)	幅 1.3	厚さ 0.5	-	30	1	玉髄（メノウ）	旧石器	-	-	-	乳白色	二側辺加工 使用痕有り

第５章　総括

第１節　住居構造と集落像について

住居構造と集落像について

A 区で検出された住居跡について，明確には SI01，SI02，SI04，SI05 の４軒，形状の不明確なもの（SI03，関連遺構としての SK04）を合わせると５軒が把握される。SI01，SI02，SI04 は古墳時代後期に比定され，本遺跡の中心となる可能性が考えられる。この中で，SI01，SI02 が全容を読み取れる住居跡であるが，この時期の住居としては SI01 が比較的小型の部類に入る。時期が判然としない超小型の SI05 もあり，様々な規模の住居が構築されていたと理解される。

構造の判然としないのが SI03 で, SK04 については焼土遺構と捉えられるが, 住居跡付帯の施設（柱穴，炉跡の残骸など）も想定され得ると判断した。ゆえに，不明確な住居跡を２軒分として考えた。いずれも弥生時代終末から古墳時代初頭に比定される。

弥生時代終末期から古墳時代初頭の住居跡

SI03 について，構造上は判然としないが，周溝など炉跡と思しき焼土遺構と遺構周辺の硬化面の検出から，住居跡の存在は想定しても良い。出土遺物と炉跡の存在から弥生終末期から古墳初頭頃の年代を比定したいが，おそらく本遺跡 A 区およびその周辺における集落開発の初源を示すものと思われる。SI01 のカマドに隣接して検出された SK04 は，内部から焼土の他に粘土塊が検出され，炉跡の残骸との考えが有力となろう。

古墳時代後期の住居跡

SI01 および SI02 とも，周溝はほぼ全周するが，共通して南東右端の角が切れている。構築上の計画性の一旦かどうかは不明である。SK04 は，そのほとんどが調査区外におよび，全容は不明である。

床面については，SK04 を含む３軒とも硬化面が明確に検出された。SI01 はその範囲が広く，生活の痕跡として長期的に居住されていたことが想像される。また SI02 に関しては，２面にわたって硬化面が確認され，時間差を以って床面の貼り替えが行なわれたようである。重複した様相の住居跡の存在は認められず，建て替えまでは至らなかったようである。上面の２次的な床面は，硬化した部分が北東側に偏っており，居住に際しての利用頻度の高さを物語っていよう。

カマドについては，検出された SI01，SI02 とも煙道が非常に短いのが特徴的である。ただ，特分にも柱穴らしきピットがあり，住居の南東側を意識して補強した構築状況が看取される。小型の SI05 を切っているが，SI05 については，出土遺物がわずかなため，時期については判然としない。少なくとも, SI01 より新時期であるのが把握される程度である。SI02 は, 主柱穴のみの確認であるが, 住居の規模からすると普通の構造と言えよう。

住居跡の分布状況と集落像について

全体的な分布状況を概観すると，３世紀頃の開発と６世紀後半頃の開発といった形成状況が理解されよう。前期から中期の様相が不明確なのが特徴的だが，あるいは何らかの理由による文化の隔絶，

一定時期の移住などがあった可能性も残る。また，SI01 から SI04 の各住居跡から，終末期の十王台式を主体とする弥生土器が出土しているが，これは住居廃絶時の周辺から混ざり込んだものと考えられる。住居跡の年代を示すものではないが，反面 A 区周辺を広く捉えて，弥生時代終末期を中心とする集落域が存在していた可能性は十分考えられる。

住居跡の検出状況は決して濃密ではなく，ほぼ単独で点在するように構築された様相である。A 区およびその周辺域まで想定すると，繁栄というほどの開発の様相とは異なるように察せられ，想像を許されるなら，拠点的集落の在り方より，限られた時期の散発的な集落の様相を考えたい。

濃密な遺物出土量および 2 面確認された生活面と把握される硬化面の存在から，長期的かつ中心的に機能した住居と考えられる。（松本）

第 2 節　調査区全体としての遺構の変遷について

前述で，A 区の弥生時代終末から古墳時代後期への住居跡の変遷について述べてきた。しかし，B 区での様相は明確ではない。明確ではないが，記述するならば，B 区南部では地層の堆積が非常に薄く，表土直下ですでに礫層に到達してしまう。このことから，B 区では後世に改変が著しいことが推測できる。年代としては出土遺物より中世以降であることが予想される。これらを踏まえて，A 区と B 区とでの遺構の変遷を考えてみると，まず，台地上である A 区に弥生時代終末期に散発的に遺構が形成され，その後，古墳時代後期になって，割合まとまって住居跡が形成された。しかし，何らかの理由で，その後，遺構を形成することはなく，中世以降となって B 区へ遺構を形成した。台地上から，やや斜面下へ移行することが窺えた。弥生時代終末～古墳時代後期まで痕跡を残し，しばらく時間をおき，中世以降になってまた痕跡を残すといった活動がみてとれた。

今回の調査では，弥生時代終末から古墳時代後期，中世以降の遺構を確認できた。また，一括資料ではあるが，中・近世に製作されたと思われる瓦が出土しており，吉田神社との関連性を伺わせる。吉田神社遺跡の調査は今回が最初であり，今後の調査の蓄積が吉田神社遺跡の全容を解明することを期待する。（伊藤）

引用・参考文献

茨城県考古学協会　2002『茨城県における旧石器時代研究の到達点 - その現状と課題 -』発表要旨・資料集　茨城県考古学協会

茨城県考古学協会　2011『茨城中世考古学の最前線』　茨城県考古学協会

茨城県立歴史館　1991『茨城県史料　考古資料編　弥生時代』　茨城県立歴史館

小川和博・大渕淳志ほか　2008『大串遺跡（第７地点）ー介護老人福祉施設建設工事に伴う埋蔵埋蔵文化財報告書ー』
水戸市埋蔵文化財調査報告第 14 集　水戸市教育委員会

川口武彦　2008 a「水戸市百合が丘町出土の神子柴型尖頭器」『婆良岐考古』第 30 号

川口武彦　2008 b「茨城県水戸市台渡里廃寺跡長者山地区・大串遺跡第７地点」　第 14 回古代交通研究会発表資料

瓦吹 堅・川口武彦・関口慶久ほか　2006『吉田古墳Ⅰ』　水戸市埋蔵文化財調査報告第６集　水戸市教育委員会

齋藤　洋・大賀　健・新垣清貴・佐藤晃雅　2005『大鋸町遺跡　グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
水戸市埋蔵文化財調査報告第３集　水戸市教育委員会

佐々木藤雄・関口慶久・大橋　生　2006『大鋸町遺跡（第３地点）ー市道浜田 207 号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー』
水戸市埋蔵文化財調査報告第７集　水戸市教育委員会

蓼沼香未由・川口武彦・池田敏宏・瓦吹　堅・黒澤彰哉・渥美賢吾　2004『台渡里廃寺跡』ー集合住宅建設工事に伴う調査報告書ー
水戸市教育委員会

橋本勝雄　1995「茨城の旧石器時代」『茨城県考古学協会誌』第７号　茨城県考古学協会

日沖剛史・石丸敦史・川口武彦・渥美賢吾・色川順子・新垣清貴　2008『薄内遺跡』　水戸市埋蔵文化財調査報告第 18 集
水戸市教育委員会

水戸市史編纂委員会編　1963『水戸市史』上巻　水戸市役所

水戸市史編纂委員会編　1999『概説　水戸市史』　水戸市役所

水戸市薬王院東遺跡発掘調査会　1990『薬王院東遺跡　千波中学校建設工事に伴う埋蔵文化財報告書』　水戸市薬王院東遺跡発掘調査会

南田法正・山本千春・川口武彦・渥美賢吾　2009『東組遺跡（第１地点）』物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
水戸市埋蔵文化財調査報告第 25 集　水戸市教育委員会

第７表　出土遺物一覧表

出土地点			出土遺物			旧石器			縄文			弥生			古墳			奈・平			中世			近世			近・現代			不明			総計	重量
遺構	グリッド	層位	種別	器種	備考	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計		(g)
SI01	C4	上層	土師器	坏				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	4
		上層	土師器	-				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	8
		-	弥生土器	壷				0			0	30		30			0			0			0			0			0			0	30	165
		-	土師器	坏				0			0			0	19		19			0			0			0			0			0	19	343
		-	土師器	甕				0			0			0	8		8	1		1			0			0			0			0	9	221
		-	土製品	-				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	19
		-	礫	-	被熱			0			0	1		1			0			0			0			0			0		1	1	2	18
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	15		15	15	134
	C5	-	弥生土器	壷				0			0	19		19			0			0			0			0			0			0	19	154
		-	土師器	坏				0			0			0	11		11			0			0			0			0			0	11	140
		-	土師器	甕				0			0			0	6		6			0			0			0			0			0	6	98
		-	土師器	甑				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	37
		-	金属製品	釘	木質付着			0			0			0			0			0			0			0			0	2		2	2	5
		-	礫	-				0			0			0			0			0			0			0			0		1	1	1	6
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	25		25	25	117
	D4	-	弥生土器	壷				0			0	69		69			0			0			0			0			0			0	69	460
		-	弥生土器	壺	底部木葉痕			0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	22
		-	弥生土器	壺	底部布目痕			0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	17
		-	土師器	坏				0			0			0	35		35			0			0			0			0			0	35	202
		-	土師器	甕				0			0			0	40		40	6		6			0			0			0			0	46	490
		-	須恵器	甕				0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	9
		-	土師質土器	カワラケ	小皿			0			0			0			0			0			0	1		1			0			0	1	2
		-	石器	剥片	チャート			0		1	1			0			0			0			0			0			0			0	1	1
		-	石製品	摩石	被熱			0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	136
		-	石製品	砥石				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	232
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	120		120	120	493
	D5	-	縄文土器	深鉢				0	2		2			0			0			0			0			0			0			0	2	35
		-	弥生土器	壷				0			0	26		26			0			0			0			0			0			0	26	138
		-	弥生土器	壷	底部布目痕			0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	64
		-	土師器	坏				0			0			0	19		19			0			0			0			0			0	19	216
		-	土師器	甕				0			0			0	21		21	2		2			0			0			0			0	23	294
		-	土師器	甕	スス付着			0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	59
		-	須恵器	坏				0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	3
		-	土師質土器	-				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	13
		-	焼締陶器	-				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	9
		-	金属製品	釘				0			0			0			0			0			0			0			0		1	1	1	6
		-	石器	石核	黒曜石			0		1	1			0			0			0			0			0			0			0	1	12
		-	礫	-	被熱			0			0			0			0			0			0			0			0		1	1	1	13
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	76		76	76	350
	E4	-	弥生土器	壷				0			0	2		2			0			0			0			0			0			0	2	19
		-	土師器	甕				0			0			0	4		4			0			0			0			0			0	4	86
		-	石製品	摩石				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	38
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	6
	E5	-	弥生土器	壷				0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	11
	-	掘り方	縄文土器	深鉢				0	1		1			0			0			0			0			0			0			0	1	29
		掘り方	弥生土器	壷				0			0	30		30			0			0			0			0			0			0	30	58
		掘り方	土師器	坏				0			0			0	3		3	1		1			0			0			0			0	4	33
		掘り方	土師器	甕				0			0			0	13		13			0			0			0			0			0	13	104
		掘り方	土師質土器	カワラケ				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	6
		掘り方	石器	石核	瑪瑙（メノウ）			0		1	1			0			0			0			0			0			0			0	1	13
		掘り方	礫	-				0			0			0			0			0			0			0			0		1	1	1	9
		掘り方	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	28		28	28	116
SI01カマド	C4	-	弥生土器	壷				0			0	23		23			0			0			0			0			0			0	23	145
		-	弥生土器	壷	底部布目痕			0			0			0			0			0			0			0			0			0	0	0
		-	土師器	甕				0			0			0	14		14	1		1			0			0			0			0	15	224
		-	土師器	甕	スス付着			0			0			0	10		10			0			0			0			0			0	10	332
		-	土製品	土錘				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	1

出土地点			出土遺物			旧石器			縄文			弥生			古墳			奈・平			中世			近世			近・現代			不明			総計	重量(g)
遺構	グリッド	層位	種別	器種	備考	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計		
SI01カマド	C4	-	礫	-				0			0			0			0			0			0			0			0		1	1	1	5
		-	礫	-	被熱、鉄付着			0			0			0			0			0			0			0			0		1	1	1	57
		-	石製品	カマド支脚	被熱			0			0			0	2		2			0			0			0			0			0	2	996
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	24		24	24	74
		2層	弥生土器	壷				0			0	4		4			0			0			0			0			0			0	4	14
		2層	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	2		2	2	13
SI01壁溝	D4	-	土師器	甕				0			0			0	2		2			0			0			0			0			0	2	57
	E4	-	土師器	甕				0			0			0	3		3			0			0			0			0			0	3	47
	E5	-	弥生土器	壷				0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	6
SI01-SK01	C4	-	弥生土器	壷				0			0	3		3			0			0			0			0			0			0	3	26
		-	土師器	甕				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	114
		-	土師器	甕	スス付着			0			0			0	4		4			0			0			0			0			0	4	57
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	9
SI01-P1	D4	-	弥生土器	壷				0			0	7		7			0			0			0			0			0			0	7	35
		-	土師器	坏				0			0			0	4		4			0			0			0			0			0	4	29
		-	土師器	甕				0			0			0	2		2			0			0			0			0	1		1	3	198
SI01-P2	C4	-	弥生土器	壷				0			0	3		3			0			0			0			0			0			0	3	27
		-	土師器	坏				0			0			0			0	2		2			0			0			0			0	2	7
		-	土師器	甑				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	44
SI01-P3	D4	-	土師器	甕				0			0			0	3		3			0			0			0			0			0	3	47
SI01-P6	D5	-	土師器	甕				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	31
SI01-P7	C4	-	石製品		被熱、鉄付着			0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	203
SI01-P9	D5	-	弥生土器	壷				0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	13
		-	土師器	甕	底部ヘラ記号			0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	39
SI02	D1	-	縄文土器	深鉢				0	9		9			0			0			0			0			0			0			0	9	93
		-	弥生土器	壷				0			0	53		53			0			0			0			0			0			0	53	493
		-	土師器	坏				0			0			0	25		25			0			0			0			0			0	25	698
		-	土師器	坏	スス付着			0			0			0	4		4			0			0			0			0			0	4	204
		-	土師器	高坏				0			0			0	26		26			0			0			0			0			0	26	758
		-	土師器	甕				0			0			0	39		39	4		4			0			0			0			0	43	1524
		-	土師器	甕	スス付着			0			0			0	3		3			0			0			0			0			0	3	31
		-	土師器	甑				0			0			0	4		4			0			0			0			0			0	4	51
		-	土師器	-				0			0			0			0			0			0			0			0	54		54	54	466
		-	土師質土器	カワラケ				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	5
		-	石製品	-	軽石製			0			0			0			0			0			0			0			0		1	1	1	58
		-	石製品	砥石				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	197
		-	石製品	磨石				0			0			0			0			0			0			0			0		1	1	1	186
		-	石製品	磨石	被熱			0			0			0			0			0			0			0			0		1	1	1	276
		-	礫	-	被熱			0			0			0			0			0			0			0			0		3	3	3	1147
		-	その他	粘土塊				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	9
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	114		114	114	600
		掘り方	弥生土器	壺				0			0	17		17			0			0			0			0			0			0	17	129
		掘り方	弥生土器	壺	底部布目痕			0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	32
		掘り方	土師器	坏				0			0			0	3		3	1		1			0			0			0			0	4	41
		掘り方	土師器	甕				0			0			0	11		11	1		1			0			0			0			0	12	337
		掘り方	須恵器	坏				0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	7
		掘り方	土師質土器	カワラケ				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	4
		掘り方	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	28		28	28	129
	D2	-	弥生土器	壷				0			0	12		12			0			0			0			0			0			0	12	259
		-	弥生土器	壺	底部木葉痕			0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	73
		-	土師器	坏				0			0			0	17		17			0			0			0			0			0	17	408
		-	土師器	甕				0			0			0	36		36	9		9			0			0			0			0	45	1415
		-	土師器	甕	底部木葉痕、被熱			0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	215
		-	土師器	甕	底部木葉痕			0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	466
		-	土師器	甕	赤彩			0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	291
		-	土師器	甕	スス付着			0			0			0	8		8			0			0			0			0			0	8	784
		-	土師器	甑				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	91

出土地点			出土遺物			旧石器			縄文			弥生			古墳			奈・平			中世			近世			近・現代			不明			総計	重量(g)
遺構	グリッド	層位	種別	器種	備考	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計		
SI02	D2	-	土師器	甑	無底式			0			0			0	6		6			0			0			0			0			0	6	163
		-	瓦質土器					0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	30
		-	礫					0			0			0			0			0			0			0			0		1	1	1	23
		-	不明					0			0			0			0			0			0			0			0	79		79	79	627
		掘り方	縄文土器					0	3		3			0			0			0			0			0			0			0	3	48
		掘り方	弥生土器	壺				0			0	43		43			0			0			0			0			0			0	43	320
		掘り方	土師器	坏				0			0			0	3		3	2		2			0			0			0			0	5	33
		掘り方	土師器	坏	赤彩			0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	14
		掘り方	土師器	甕				0			0			0			0	13		13			0			0			0			0	13	307
		掘り方	土師器					0			0			0			0			0			0			0			0	32		32	32	302
		掘り方	須恵器	蓋				0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	10
		掘り方	須恵器	甕				0			0			0			0	2		2			0			0			0			0	2	32
		掘り方	土師質土器	カワラケ				0			0			0			0			0	2		2			0			0			0	2	22
		掘り方	土師質土器	鍋類				0			0			0			0			0	2		2			0			0			0	2	48
		掘り方	瓦質土器					0			0			0			0			0	2		2			0			0			0	2	36
		掘り方	石製品	砥石				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	30
		掘り方	不明					0			0			0			0			0			0			0			0	40		40	40	277
		掘り方	土師器	甕				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	19
	E1	-	弥生土器	壺				0			0	4		4			0			0			0			0			0			0	4	49
		-	土師器	坏				0			0			0	1		1	1		1			0			0			0			0	2	313
		-	土師器	甕				0			0			0	26		26	1		1			0			0			0			0	27	337
		-	土師器	甕	炭化物付着			0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	157
		-	不明					0			0			0			0			0			0			0			0	4		4	4	21
	E2	-	弥生土器	壺				0			0	2		2			0			0			0			0			0			0	2	31
		-	土師器	甕	赤彩			0			0			0	15		15			0			0			0			0			0	15	2020
		-	土師器	甕	底部木葉痕			0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	66
SI02カマド	D1	-	土師器	坏				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	30
SI02壁溝	D2	-	弥生土器	壺				0			0	2		2			0			0			0			0			0			0	2	27
		-	土師器	高坏				0			0			0	2		2			0			0			0			0			0	2	17
		-	土師器					0			0			0			0			0			0			0			0	2		2	2	54
SI02-P1	D1	-	弥生土器	壷				0			0	3		3			0			0			0			0			0			0	3	39
		-	弥生土器	壷	底部木葉痕			0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	12
		-	土師器	甕				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	13
		-	不明					0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	14
SI02-P2	D2	-	土師器	坏				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	9
		-	土師器	甕				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	89
SI02-P3	E1	-	土師器	坏				0			0			0	6		6			0			0			0			0			0	6	443
		-	土師器	甕	圧痕あり			0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	38
		-	土師器	甕	スス付着			0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	55
		-	礫		被熱			0			0			0			0			0			0			0			0		1	1	1	761
SI02-P4	D1	-	土師器	甕				0			0			0			0	2		2			0			0			0			0	2	72
SI03炉	B5	-	弥生土器	壷				0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	23
SI04	B5	-	弥生土器	壷				0			0	2		2			0			0			0			0			0			0	2	49
		-	土師器	坏				0			0			0	2		2			0			0			0			0			0	2	73
		-	土師器	高台付坏				0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	29
		-	土師器	甕				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	23
	B6	-	縄文土器	深鉢				0	2		2			0			0			0			0			0			0			0	2	75
		-	弥生土器	壺				0			0	26		26			0			0			0			0			0			0	26	241
		-	土師器	坏				0			0			0	22		22			0			0			0			0			0	22	236
		-	土師器	甕				0			0			0	10		10			0			0			0			0			0	10	121
		-	土師器	甕	赤彩			0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	22
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	73		73	73	537
		2層	弥生土器	壷				0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	2
		2層	土師器	坏				0			0			0	2		2			0			0			0			0			0	2	37
		2層	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	7
	D5	-	弥生土器	壷				0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	3
		-	土師器	坏				0			0			0	2		2			0			0			0			0			0	2	8

出土地点			出土遺物			旧石器			縄文			弥生			古墳			奈・平			中世			近世			近・現代			不明			総計	重量(g)
遺構	グリッド	層位	種別	器種	備考	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計		
SI04	D5	-	土師器	甕				0			0			0	3		3			0			0			0			0			0	3	30
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	2		2	2	7
	-	-	縄文土器	深鉢				0	1		1			0			0			0			0			0			0			0	1	26
SI04壁溝	B5	-	縄文土器	深鉢				0	1		1			0			0			0			0			0			0			0	1	92
SI04-P1	B5	-	縄文土器	深鉢				0	1		1			0			0			0			0			0			0			0	1	11
		-	弥生土器	壷				0			0	2		2			0			0			0			0			0			0	2	12
		-	土師器	坏				0			0			0	2		2			0			0			0			0			0	2	10
		-	土師器	甕				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	39
SI05	C5	-	土師器	甕				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	22
	C6	-	弥生土器	壺				0			0	11		11			0			0			0			0			0			0	11	53
		-	土師器	坏				0			0			0	4		4	1		1			0			0			0	1		1	6	36
		-	土師器	甕				0			0			0	13		13	4		4			0			0			0	2		2	19	272
		-	須恵器	-				0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	10
		-	土製品	土玉				0			0			0			0			0			0			0			0		1	1	1	18
		-	金属製品	鉄鏃				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	6
		-	礫	-	被熱			0			0			0		1	1			0			0			0			0			0	1	32
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	52		52	52	354
	D5	-	土師器	坏				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	9
		-	土師器	甕				0			0			0	4		4	1		1			0			0			0			0	5	54
		-	金属製品	-				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	3
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	8		8	8	47
	D6	-	土師器	甕				0			0			0	2		2	1		1			0			0			0			0	3	64
		-	土師器	甕	スス付着			0			0			0	4		4			0			0			0			0			0	4	207
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	7		7	7	64
		掘り方	弥生土器	壺				0			0	2		2			0			0			0			0			0			0	2	12
		掘り方	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	5		5	5	10
SK01	J4	-	不明					0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	20
SK02	C3	-	土師器	皿				0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	11
SK03	C3	-	不明					0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	6
SK04	C4	-	弥生土器	壷				0			0	6		6			0			0			0			0			0			0	6	37
		-	土師器	坏				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	6
		-	土師器	甕				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	14
SK06	D2	-	不明					0			0			0			0			0			0			0			0	3		3	3	10
SK08	H5	-	土師質土器	鍋	スス付着			0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	52
		-	瓦質土器	火鉢				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	61
SK11	J4	-	土師器	甕				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	54
SK12	J4	-	土師質土器	カワラケ				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	4
		底面	土師質土器	カワラケ				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	5
SP04	H5	-	土師質土器	火鉢				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	35
		-	瓦質土器	火鉢				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	21
		-	瓦	平瓦	炭化物付着			0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	132
SP05	I5	-	不明					0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	6
SP08	J5	-	土師器	坏	内面黒色処理			0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	2
		1層	不明					0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	6
A区	A4	表土	弥生土器	壷				0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	11
	A4,B4	表土	弥生土器	壺				0			0	8		8			0			0			0			0			0			0	8	33
		表土	弥生土器	壺	底部布目痕			0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	19
		表土	土師器	坏				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	10
	D2	表土	弥生土器	壺				0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	4
		表土	不明					0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	6
	E1,E2	表土	弥生土器	壷				0			0	2		2			0			0			0			0			0			0	2	22
		表土	土師器	坏				0			0			0	3		3			0			0			0			0			0	3	55
		表土	土師器	蓋				0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	26
		表土	土師器	甕				0			0			0	5		5			0			0			0			0			0	5	187
		表土	土師器	甕	スス付着			0			0			0			0			0	2		2			0			0			0	2	280
		表土	土師器	甑				0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	28
		表土	不明					0			0			0			0			0			0			0			0	3		3	3	9

出土地点			出土遺物			旧石器			縄文			弥生			古墳			奈・平			中世			近世			近・現代			不明			総計	重量(g)
遺構	グリッド	層位	種別	器種	備考	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計		
A区	E1,E2	表土	不明		炭化物付着			0			0			0			0			0			0			0			0		1	1	1	103
	-	表土	弥生土器	壷				0			0	20		20			0			0			0			0			0			0	20	168
		表土	弥生土器	壷	底部布目痕			0			0	2		2			0			0			0			0			0			0	2	19
		表土	弥生土器	壷	底部木目痕			0			0	2		2			0			0			0			0			0			0	2	25
		表土	土師器	坏				0			0			0	6		6	1		1			0			0			0			0	7	60
		表土	土師器	甕				0			0			0	6		6			0			0			0			0			0	6	131
		表土	須恵器	坏				0			0			0			0	1		1			0			0			0	2		2	3	26
		表土	須恵器	甕				0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	19
		表土	土師質土器	カワラケ				0			0			0			0			0	3		3			0			0			0	3	34
		表土	土師質土器	カワラケ	小皿			0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	12
		表土	土師質土器	火鉢				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	17
		表土	土師質土器	-				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	13
		表土	瓦質土器	鉢				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	22
		表土	陶器	植木鉢				0			0			0			0			0			0			0	1		1			0	1	68
		表土	石製品	-				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	67
		表土	石製品	-	瑪瑙			0			0			0			0			0			0			0			0	33		33	33	292
A区カクラン	A2	-	土師質土器	カワラケ				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	10
		-	土師質土器	鍋				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	29
		-	土師質土器	-				0			0			0			0			0	2		2			0			0			0	2	22
		-	金属製品	釘				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	2
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	11		11	11	50
	B4	-	弥生土器	壷				0			0	10		10			0			0			0			0			0			0	10	65
		-	土師器	坏	内面黒色処理			0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	24
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	10		10	10	36
	C6	-	弥生土器	壷				0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	4
		-	土師質土器	-				0			0			0			0			0	2		2			0			0			0	2	13
		-	磁器	-				0			0			0			0			0			0			0	1	1	2			0	2	72
		-	金属製品	-				0			0			0			0			0			0			0	11		11			0	11	50
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	2		2	2	11
	D4	-	土製品	土錘				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	1
	-	-	弥生土器	壺				0			0	20		20			0			0			0			0			0			0	20	205
		-	土師器	坏				0			0			0	2		2	4		4			0			0			0			0	6	43
		-	土師器	甕				0			0			0	13		13			0			0			0			0			0	13	159
		-	土師質土器	カワラケ				0			0			0			0			0			0	1		1			0			0	1	4
		-	瓦質土器	-				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	9
		-	焼締陶器	-				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	68
		-	土師質土器	七厘				0			0			0			0			0			0	1		1			0			0	1	19
		-	礫	-				0			0			0			0			0			0			0			0		2	2	2	255
		-	その他	玩具	プラスチック製			0			0			0			0			0			0			0	5		5			0	5	4
		-	その他	獣骨				0			0			0			0			0			0			0			0	50		50	50	950
		-	不明	-				0			0			0			0			0			0			0			0	75		75	75	313
A区	H4	表土	土師器	甕				0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	16
	H5	表土	弥生土器	壺				0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	31
		表土	土師器	坏				0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	6
		表土	土師器	高台付坏	足高高台			0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	19
		表土	土師器	甕				0			0			0	2		2			0			0			0			0			0	2	75
		表土	土師質土器	鍋類				0			0			0			0			0	2		2			0			0			0	2	47
		表土	土師質土器	鍋類	スス付着			0			0			0			0			0	3		3			0			0			0	3	127
		表土	土師質土器	甕				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	81
		表土	土師質土器	-				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	26
		表土	瓦質土器	火鉢				0			0			0			0			0	3		3			0			0			0	3	249
		表土	焼締陶器	甕				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	87
		表土	瓦	平瓦				0			0			0			0			0			0	1		1			0			0	1	567
		表土	瓦	丸瓦				0			0			0			0			0			0	1		1			0			0	1	245
	I4	表土	土師質土器	鍋				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	22
	J4	表土	弥生土器	壺				0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	17
		表土	土師器	甕				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	30

出土地点			出土遺物			旧石器			縄文			弥生			古墳			奈・平			中世			近世			近・現代			不明			総計	重量(g)
遺構	グリッド	層位	種別	器種	備考	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計		
B区	J4	表土	須恵器	甕	割れ口に研磨痕			0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	84
		表土	土師質土器	鍋類				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	20
		表土	土師質土器	鍋類	スス付着			0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	25
		表土	石器	剥片			1	1			0			0			0			0			0			0			0			0	1	117
		表土	不明					0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	10
	〃	表土	縄文土器	深鉢				0	1		1			0			0			0			0			0			0			0	1	12
		表土	弥生土器	壺				0			0	6		6			0			0			0			0			0			0	6	29
		表土	土師器	坏				0			0			0	2		2	1		1			0			0			0			0	3	62
		表土	土師器	坏	内面黒色処理			0			0			0			0	2		2			0			0			0			0	2	6
		表土	土師器	甕				0			0			0	12		12	3		3			0			0			0			0	15	158
		表土	土師質土器	カワラケ				0			0			0			0			0	6		6			0			0	1		1	7	38
		表土	土師質土器	鍋類				0			0			0			0			0	5		5			0			0			0	5	129
		表土	土師質土器	火鉢	人面			0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	146
		表土	土師質土器					0			0			0			0			0	15		15			0			0			0	15	201
		表土	瓦質土器					0			0			0			0			0	10		10			0			0			0	10	268
		表土	焼締陶器	甕				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	88
		表土	陶器	火鉢				0			0			0			0			0			0			0	5		5			0	5	715
		表土	陶器		灰釉			0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	59
		表土	陶器					0			0			0			0			0	2		2			0			0			0	2	20
		表土	磁器	碗				0			0			0			0			0			0			0	1		1			0	1	4
		表土	磁器					0			0			0			0			0			0			0	6	2	8			0	8	347
		表土	瓦	平瓦				0			0			0			0			0	7		7			0			0			0	7	3209
		表土	瓦	丸瓦				0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	538
		表土	金属製品	釘				0			0			0			0			0			0			0	3		3			0	3	20
		表土	ガラス製品	ビン類				0			0			0			0			0			0			0		2	2			0	2	129
		表土	石製品	金属付着				0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	27
		表土	礫					0			0			0			0			0			0			0			0		11	11	11	344
		表土	その他	コンクリート				0			0			0			0			0			0			0	2		2			0	2	80
		表土	その他	貝				0			0			0			0			0			0			0			0		1	1	1	25
		表土	その他	骨	鳥			0			0			0			0			0			0			0			0	2		2	2	8
		表土	不明					0			0			0			0			0			0			0	2		2	32		32	34	338
調査区	〃	表土	縄文土器	深鉢				0	1		1			0			0			0			0			0			0			0	1	16
		表土	弥生土器	壺				0			0	13		13			0			0			0			0			0			0	13	110
		表土	弥生土器	壺	スス付着			0			0	1		1			0			0			0			0			0			0	1	26
		表土	土師器	坏				0			0			0	3		3			0			0			0			0			0	3	21
		表土	土師器	坏	内面黒色処理			0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	10
		表土	土師器	甕				0			0			0	6		6	1		1			0			0			0			0	7	159
		表土	土師器	甑				0			0			0	1		1			0			0			0			0			0	1	14
		表土	須恵器	坏				0			0			0			0	2		2			0			0			0			0	2	4
		表土	須恵器	蓋				0			0			0			0	1		1			0			0			0			0	1	11
		表土	須恵器	甕				0			0			0			0	3		3			0			0			0			0	3	30
		表土	土師質土器	鍋類				0			0			0			0			0	3		3			0			0			0	3	95
		表土	土師質土器	鍋類	スス付着			0			0			0			0			0	3		3			0			0			0	3	85
		表土	土師質土器	カワラケ				0			0			0			0			0	4		4			0			0			0	4	16
		表土	瓦質土器	火鉢				0			0			0			0			0	4		4			0			0			0	4	112
		表土	瓦	平瓦	二次被熱			0			0			0			0			0	1		1			0			0			0	1	52
		表土	石器	ナイフ形石器	玉髄(メノウ)	1		1			0			0			0			0			0			0			0			0	1	1
		表土	石器	剥片				0			0			0			0			0			0			0			0		1	1	1	2
		表土	石器	磨石	被熱			0			0			0			0			0			0			0			0		2	2	2	256
		表土	石製品	火打ち石	瑪瑙			0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	7
		表土	礫					0			0			0			0			0			0			0			0		1	1	1	84
		表土	不明					0			0			0			0			0			0			0			0	36		36	36	244
カクラン	〃	-	弥生土器	壷				0			0	2		2			0			0			0			0			0			0	2	10
		-	不明					0			0			0			0			0			0			0			0	1		1	1	3
総計						1	1	2	22	3	25	506	0	506	617	1	618	93	0	93	112	0	112	5	0	5	37	5	42	1088	35	1123	2526	44529

写　真　図　版

写真図版1

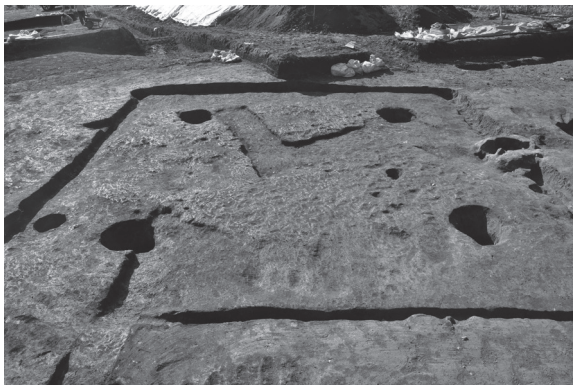
A 区遺構検出状況（南西から）

B 区遺構検出状況（西から）

A 区　遺構完掘状況（北西から）

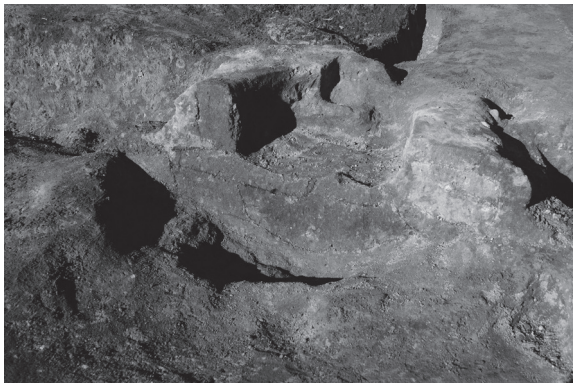
B 区　遺構完掘状況（南から）

写真図版3



SI01　完掘（北東から）

SI01　カマド袖・焼土検出状況（東から）

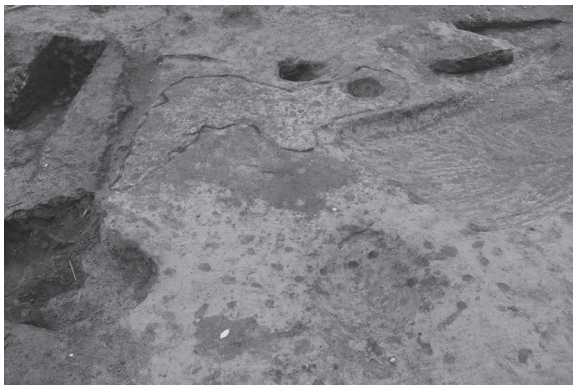


SI01　カマド南北セクション（東から）

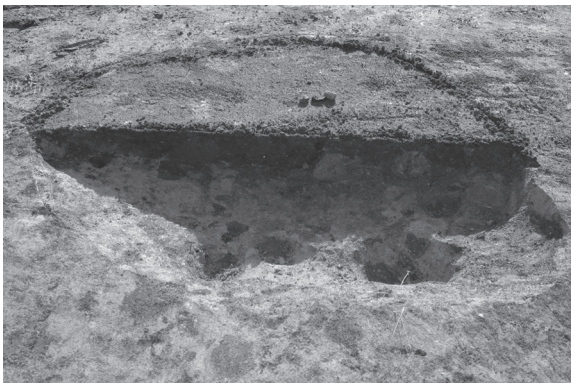
SI02　完掘（東から）

SI02　掘り方完掘（東から）

SI02　南東部遺物出土状況（西から）

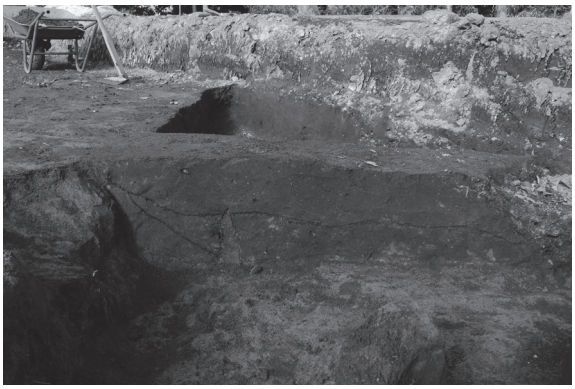


SI03　硬化面検出（西から）



SI03　炉セクション（西から）

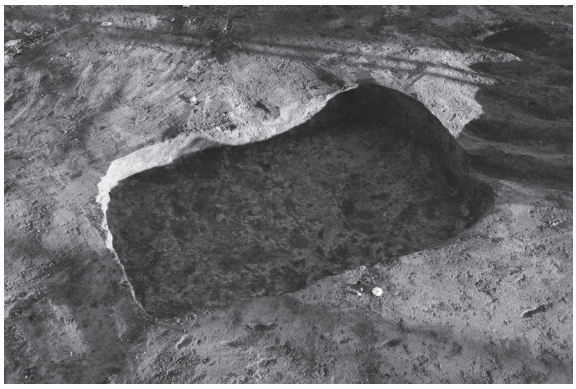
SI04　完掘（北西から）



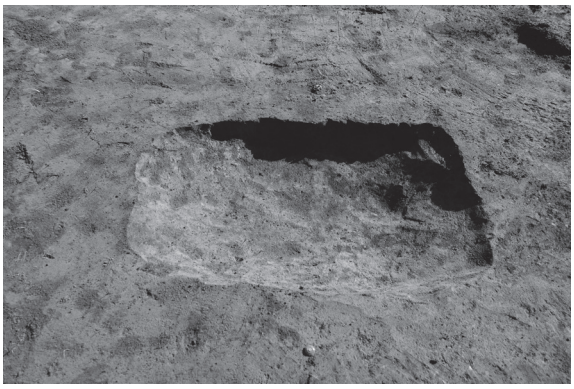
SI04　南北セクション（東から）

SI05　完掘（南東から）

SK01　完掘（南から）

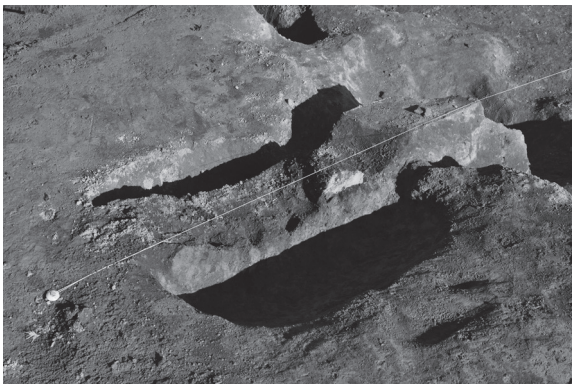


SK02　完掘（北西から）



SK03　完掘（西から）

SK03　セクション（南から）

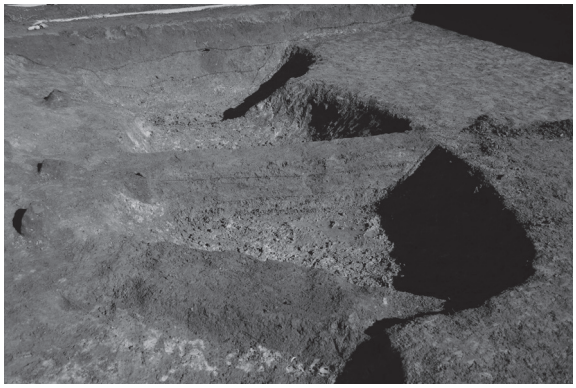


SK04　セクション（南西から）

写真図版５

SK09　セクション（西から）

SK10　セクション（南から）



SK11　セクション（南から）

P08 ～ P13　完掘（南から）

SI01 作業風景（南西から）

埋戻し状況（南から）

SI01　出土遺物

写真図版７

SI02　出土遺物（１）

SI02　出土遺物（2）

写真図版９

SI03出土遺物

SI04出土遺物

SI05出土遺物

遺構外出土遺物（１）

SI03・04・05 出土遺物　遺構外出土遺物（１）

11

12

13

14

遺構外出土遺物（2）

遺構外出土遺物（2）

報　告　書　抄　録

ふりがな	よしだじんじゃいせき（だいいちちてん）
書　　名	吉田神社遺跡（第１地点）
副　書　名	大型物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告　第59集
編集者名	前田卓宏　伊藤千洋　松本晃　高野恒一　渥美賢吾　米川暢敬
編集機関	テイケイトレード株式会社
所　在　地	〒160-0021　東京都新宿区歌舞伎町1-1-16 TEL：03-5155-0391（代）FAX：03-5155-0930
発行機関	水戸市教育委員会　/　〒310-8052 茨城県水戸市笠原町978-5 （担当：文化課埋蔵文化財センター / 〒311-1114　茨城県水戸市塩崎町1064-1TEL・FAX:029-269-5090）
発行年月日	2013(平成25)年４月30日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
吉田神社遺跡（よしだじんじゃいせき） （第１地点）（だいいちちてん）	茨城県（いばらきけん）水戸市（みとし） 宮内町（みやうちちょう） 3197番地（ばんち）５外（ほか）	8201	201-161	36°21′39″	140°28′51″	2012.12.6 ～ 2013.1.11	500㎡	大型物販店舗建設工事に伴う遺跡の発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉田神社遺跡 （第１地点）	集落跡	弥生時代 古墳時代 中世・近世	住居跡　５軒 土坑　11基 ピット　１３基	弥生土器 土師器 須恵器 石器 土師質土器 瓦質土器 陶磁器	住居跡より古墳時代後期６世紀と思われる土師器が出土。また、遺構内外から弥生時代後期の土器が出土した。

要　　約	今般の調査において、調査区北側で古墳時代後期の住居跡４軒、年代不明の住居跡１軒、南側で、中・近世以降の土坑を検出することができた。古墳時代の住居跡の内１基は、カマドを伴う一辺が6.5m程の住居跡で、住居内からは6世紀頃の土師器坏、甕などが出土した。また、調査区内からは古墳時代の土師器の他、弥生時代後期の弥生土器や、中・近世の土師質土器なども多く出土しており、当該地域における弥生時代から近世に至るまでの様相の一端が窺える。

水戸市埋蔵文化財調査報告　　第59集

吉田神社遺跡（第１地点）

大型物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日　　2013年４月30日

編　集　テイケイトレード株式会社　　〒160-0021　東京都新宿区歌舞伎町1-1-16
TEL　03-5155-0391(代)

発　行　水戸市教育委員会　　〒310-0852　茨城県水戸市笠原町978-5
TEL（担当）029-269-5090

印　刷　株式会社東プリ　　〒144-0052　東京都大田区蒲田4-41-11
TEL　03-3732-4155